

久慈市埋藏文化財調査報告書 第13集

久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ

1991. 3

岩手県久慈市教育委員会

## 序

先人の築いた文化遺産はその地方の歴史を解明するうえで、貴重なものです。

遺跡など、地中に埋蔵されている文化遺産を埋蔵文化財と総称します。

近年、各種開発による土木工事等に伴い、埋蔵文化財の発掘調査が増加しています。

この度、遺跡の分布状況、内容等を把握し、遺跡台帳を整え、開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、市内詳細分布調査を4年次計画で実施することとしました。

平成2年度は4年次計画の2年度で、長内町・小久慈町地区を主な対象として調査を実施しました。

本書はその成果をまとめたものであり、今後、埋蔵文化財保護を進めるうえでの一助となれば幸いです。

平成3年3月

久慈市教育委員会

教育長 長内俊雄

## 例 言

- 1 本書は、平成2年度文化財保護事業として国庫及び県費補助を受けて久慈市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査は久慈市教育委員会が主体となり実施した。
- 3 調査体制は次のとおりである。

事務局 社会教育課長 桑田 和 雄  
郷土文化係長 坂本 治 雄  
文化財調査員 千葉 啓 蔵

調査員 千葉 啓 蔵

屋外作業員 和野 ツヤ 西川 ヨシ  
屋内作業員 和野 ツヤ 西川 ヨシ
- 4 石質鑑定は新田康夫氏（久慈市立山根中学校長）に依頼した。
- 5 本書の編集、原稿執筆、図版作成、写真撮影等は千葉が担当した。
- 6 調査に関する資料は久慈市教育委員会が一括して保管してある。

# 目 次

序	
例 言	
第 I 章 分布調査の概要	1
第 II 章 調査結果	4
1. 長内町大尻地区	4
2. 長内町二子地区	12
3. 長内町元木沢・平沢・上長内・中長内・下長内地区	24
4. 小久慈町日吉・堀内地区	36
5. 小久慈町田高良・横合・誤子・古山地区	43
6. 柏崎・長内町田高・小久慈町柏木・秋葉・大沢田地区	49
7. 小久慈町日当・岸里・川代・白山地区	58
第 III 章 まとめ	68

# 図 版 目 次

第 1 図 分布調査対象範囲図	第 17 図 元木沢・平沢地区表採遺物
第 2 図 長内町大尻地区遺跡分布図	第 18 図 平沢地区表採遺物
第 3 図 大尻遺跡発掘調査箇所及び出土遺物	第 19 図 小久慈町日吉・堀内地区遺跡分布図
第 4 図 大尻地区表採遺物 (1)	第 20 図 館の台館跡地形図
第 5 図 大尻地区表採遺物 (2)	第 21 図 日吉・堀内地区表採遺物
第 6 図 長内町二子地区遺跡分布図	第 22 図 小久慈町田高良・横合・誤子・古山地区 遺跡分布図
第 7 図 二子地区表採遺物 (1)	第 23 図 田高良・横合・古山地区表採遺物
第 8 図 二子地区表採遺物 (2)	第 24 図 柏崎・長内町田高・小久慈町柏木・秋葉 大沢田地区遺跡分布図
第 9 図 二子地区表採遺物 (3)	第 25 図 田高・柏木・秋葉・大沢田地区表採遺物
第 10 図 二子貝塚出土遮光器形土偶	第 26 図 小久慈町日当・岸里・川代地区遺跡分布図
第 11 図 長内町元木沢・平沢・上長内・中長内 下長内地区遺跡分布図	第 27 図 小久慈館跡地形図
第 12 図 小屋畑遺跡、上野山遺跡遺構配置図	第 28 図 天田内 I・II 遺跡位置図
第 13 図 上野山 (II) 遺跡遺構配置図	第 29 図 日当・川代地区表採遺物
第 14 図 平沢 I 遺跡遺構配置図	
第 15 図 中長内遺跡 I 調査区遺構配置図	
第 16 図 中長内遺跡 II・III・IV・V 調査区遺構 配置図	

## 第I章 分布調査の概要

岩手県久慈市は北上山地北東部に位置する。経緯度は、東経141度38分～141度52分、北緯40度00分～40度17分である。広さは、東西21km、南北33km、面積は325.66km<sup>2</sup>である。九戸郡種市町・大野村・山形村・野田村及び下閉伊郡岩泉町に接し、東は太平洋に面する。久慈湾に注ぐ久慈川、長内川、夏井川流域、野田湾に注ぐ宇部川流域に主な集落が形成され、市域の約82%が山林原野で、気候は夏は涼しく、冬は温暖である。人口は約4万人である。

久慈市内においては、現在約200箇所の遺跡が確認されている。主に、畑地などに利用されている箇所において遺跡が確認されており、山林地が大半を占めているため、未確認の遺跡が多く存在するものと予想される。

近年、当市においてバイパス建設等各種道路整備、企業の誘致建設、国家石油備蓄基地建設などの他、民間企業における宅地開発が急増しており、それに伴う発掘調査件数も増加している。これらの各種開発と埋蔵文化財保護との調整を図るため遺跡台帳を整備し、遺跡の保護に資することを目的とし、平成元年度から国庫補助及び県費補助を導入し遺跡詳細分布調査を実施した。

平成元年度は、侍浜町本波・変生地区、夏井町半崎・田中・閉伊町・宇津目・鼻館・大崎地区、源道・旭町地区を分布調査の対象として実施している。

平成2年度は、国道45号線久慈バイパス開通後、開発の急増が予想される長内地区及び、近年宅地化が進んでいる柏崎地区及び小久慈地区を対象地として分布調査を実施した。

調査方法は、対象範囲が広いため、踏査を主体として実施した。

長内地区は、発掘調査例の多い地区で、その調査成果から徐々に遺跡の内容が明らかになってきている地区である。これまで、大尻遺跡、二子貝塚、平沢遺跡、小屋畑遺跡、上野山遺跡、中長内遺跡などにおいて発掘調査が実施されており、大尻遺跡では縄文時代前期後半から中期前半にかけて形成された遺物包含層が、二子貝塚では縄文時代後期から晩期にかけて形成された貝層などが検出されている。平沢遺跡、小屋畑遺跡、上野山遺跡、中長内遺跡では主に縄文時代及び古代の複合集落跡が検出されている。

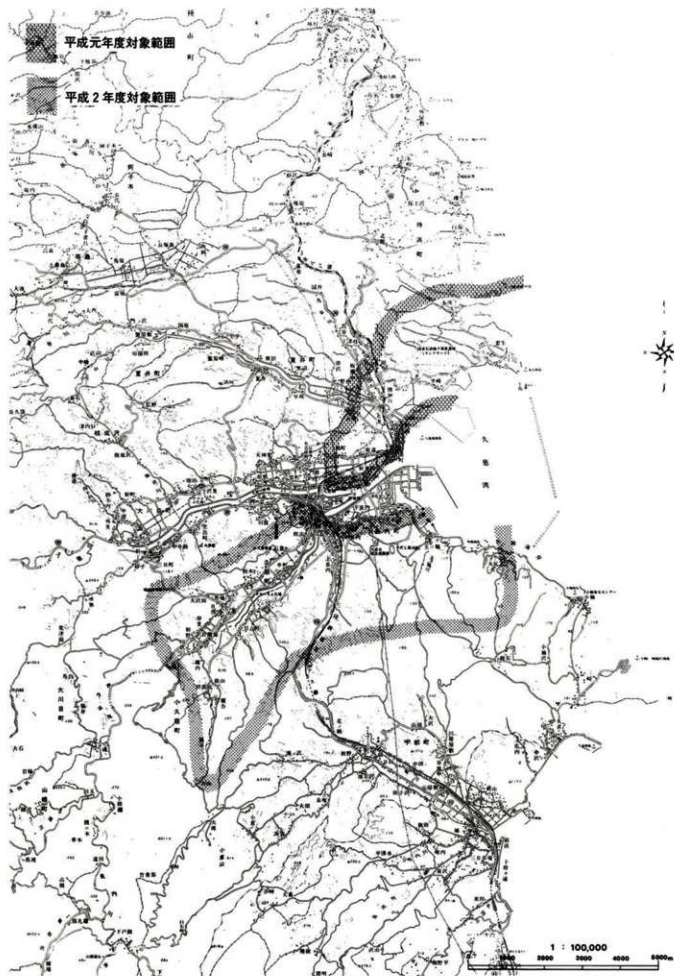
小久慈地区については、これまで遺跡の詳細な分布調査が行われていなかったため、遺跡の分布密度は稀薄な地区であったが、今回の調査により、多くの遺跡が確認された。

分布調査の結果、対象地においては、新発見の遺跡は44箇所、周知の遺跡20箇所と合わせて遺跡数は64箇所となった。なお、これまで埋蔵文化財包蔵地として知られていたにもかかわらず、遺跡台帳に未登録であった遺跡については、新発見として取り扱うこととした。山林地については確認が不可能な箇所もあったため、さらに遺跡数は増加するものと思われる。

調査の結果は、分布調査カードに記載し、市教育委員会にて保管している。

なお、久慈市は昭和29年11月3日に久慈町、長内町、大川目村、山根村、夏井村、侍浜村、宇部村の2町5村が合併して、市制施行がなされ現在に至っている。遺跡分布図を作成する際に各地区の区分を次ぎのとおりとして取り扱ったので表としてあらわしておくこととしたい。

大 区 分	小 区 分					
久 慈 地 区	川 貫 中 町 駅 前 源 道 栄 町 碁 石	西の沢 新 町 表 町 旭 町 寺 里 広 野	荒 町 巽 町 中の橋 京の森 畑 田	八日町 柏 崎 田 屋 門 前 沢 里	十八日町 本 町 新井田 新中の橋 枝成沢	二十八日町 川崎町 湊 町 天神堂 津内口
小久慈地区	古 山 日吉町 上日当 幸 町	詠 子 白 山 中 里	横 合 川 代 下日当	田高良 和 野 大沢田	鉄 山 岸 里 秋 葉	堀 内 岩瀬張 柏 木
長 内 地 区	新築町 下長内	田 高 元木沢	上長内 平 沢	新長内 玉の脇	広美町 二 子	中長内 大 尻
大川目地区	生出町 森 田 中 馬 内	仲小路 山 口 神 成 根 井	新 丁 外 里 長久保 滝	千 草 田子内 根 森	三日町 中 田 水 無	砂 子 新 町 荒津前
夏 井 地 区	川 代 沢 山 夏 井 田 沢 半 崎 菱 倉	大 芦 切屋田 蕪 田 駅 前 板 橋	中 崎 国 坂 黒 沼 大 湊 田 中	門の沢 小 田 早 坂 鼻 館 宇津目	富 原 生 平 野 中 住 吉 鳥 谷	蟹屋敷 葡萄峰 大 崎 閉伊口 国 丹
侍 浜 地 区	角 柄 外屋敷 白 前	堀 切 本 町 本 波	砂 沢 向 町 麦 生	長 崎 北 野	高 家 保土沢	桑 畑 横 沼
宇 部 地 区	小 倉 和 野 中 田 久 喜	大 波 北の越 山屋敷 三 崎	長 坂 日 向 川原屋敷 小 袖	馬 寄 町 谷地中 小袖沢	大 畑 田子沢 山 田 館 石	滝の沢 地京沢 大 沢
山 根 地 区	下戸鎮 玉 沢 徳 部 千 足 高 根 川 又 戸鎮沢	下 野 端 神 細 野 葛 形 竹倉部 馬 渡 深 田	馬 越 柳 沢 野 頭 浅小沢 川 遠 虫 豆 岩 脇	中戸鎮 円 館 細工藤 木壳内 槇の木 横 倉 大 石	赤間立 大久保 塚 宗 橋 場 草 木 相 沢	上戸鎮 清水川 村 井 保礼羅 小田瀬 長 坂



第1図 分布調査対象範囲図



番号	遺跡名	遺跡跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	大尻Ⅰ遺跡	J.G.31. 3028	竊塚(石室葬)	縄文土器(前期・中期)	長内町大尻	昭和61年度発掘調査
2	大尻Ⅱ遺跡	J.G.31. 3028	竊塚跡	縄文土器(前期)	長内町大尻	
3	大尻Ⅲ遺跡	J.G.31. 3056	散布地	縄文土器	長内町大尻	
4	大尻Ⅳ遺跡	J.G.31. 3068	散布地	縄文土器	長内町大尻	
5	大尻Ⅴ遺跡	J.G.31. 3069	散布地	縄文土器	長内町大尻	
6	大尻Ⅵ遺跡	J.G.31. 3099	散布地	縄文土器	長内町大尻	
7	大尻Ⅶ遺跡	J.G.31. 2036	散布地	縄文土器	長内町大尻	

第2図 長内町大尻地区遺跡分布図 (S-1:20,000)





第1図版 長内町大尻地区航空写真

## 第Ⅱ章 調査結果

### 1. 長内町大尻地区

久慈湾に北面する長内地区の海岸寄りには、海岸段丘面が部分的に認められる。主に北流し太平洋に注ぐ各河川によって開析されているため海岸線に沿って分断された状態で、段丘面が点在している。海岸線は断崖となっており、岩礁地帯が続き景勝地ともなっており、陸中海岸国立公園に指定されている。

大尻地区は東西両側を沢で開析されており、海岸寄りには断崖となっている。標高約50～120mで照井一明氏の段丘分類によると、有家段丘（標高60～90m）、麦生段丘（90～110m）に相当する。約180,000㎡にわたり緩やかな地形が形成されており、そこに現在集落が営まれている。宅地の他は主に畑地利用されており、ほぼ全面にわたり遺物の散布が認められる。

大尻Ⅰ遺跡は、大尻地区のほぼ中心部にあたり、凹地的な地形に立地する。昭和61年度舟渡漁港漁業集落環境整備事業として集落道を新設する際に、約350㎡にわたり発掘調査が市教育委員会によって行なわれた。（第3図）

調査の結果、縄文時代前期円筒下層b式期から縄文時代中期円筒上層b式期に属する遺物包含層が検出された。層厚約50cmにわたり遺物が包含されており、土器、石器等の他、琥珀の小塊、獣骨、魚骨、人骨等が出土している。遺構は検出されなかったが、付近に該期の集落跡が存在するものと推定されるとともに縄文期に属する自然遺物が包含されている遺跡として貴重である。

大尻Ⅱ遺跡は、南から北へ延びる丘陵地に立地する。主に畑地であるが、遺物の散布密度は濃く、集落跡が存在するものと予想される。

大尻Ⅲ遺跡は、畑地として利用されている。遺物の散布密度は薄い。

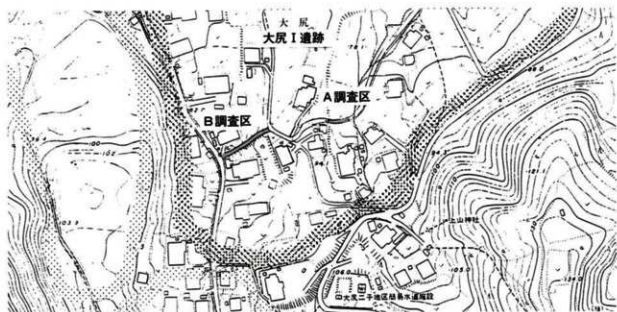
大尻Ⅳ・Ⅴ遺跡は、標高約130～155mで大尻Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡より高位段丘面に立地している。遺物の散布密度は薄い。

大尻Ⅵ遺跡は、大尻地区では最も海岸線に近い場所に立地し、弥生式土器が散布しており、縄文時代を主体とする大尻地区の中では時期的に特異である。

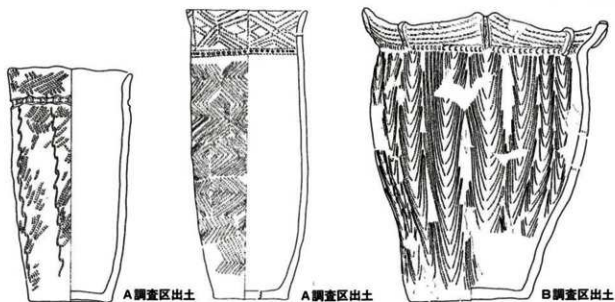
大尻Ⅰ～Ⅵ遺跡については、ほぼ全面がひとつの遺跡群として捉えられるものである。

大尻遺跡群より南へ約1km、標高約170～180mの高位段丘面に大尻Ⅶ遺跡は立地する。東から西への緩傾斜面で畑地利用されている。縄文時代に属する遺物が表採される。

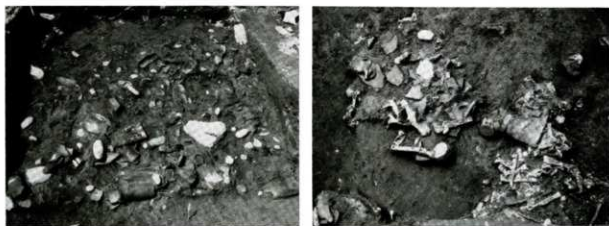
大尻Ⅶ遺跡周辺においても緩斜面は数箇所認められ、遺跡の存在は予想されるが、山林であるため、遺跡の所在確認は不可能であった。



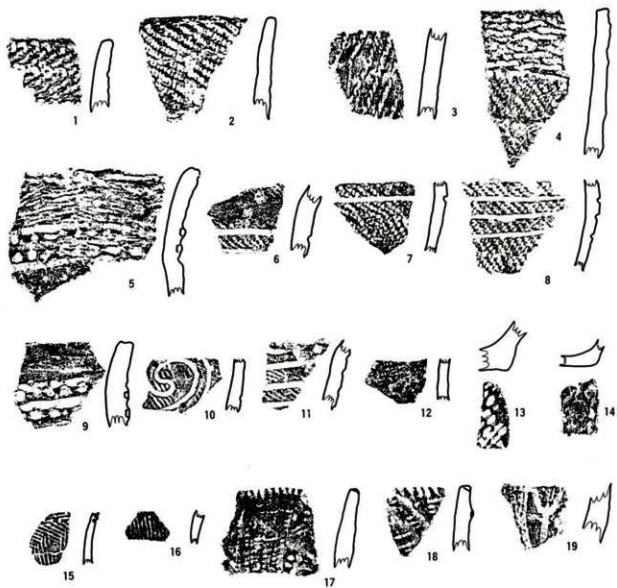
S-1 : 3,000



第3図 大尻遺跡発掘調査箇所及び出土遺物



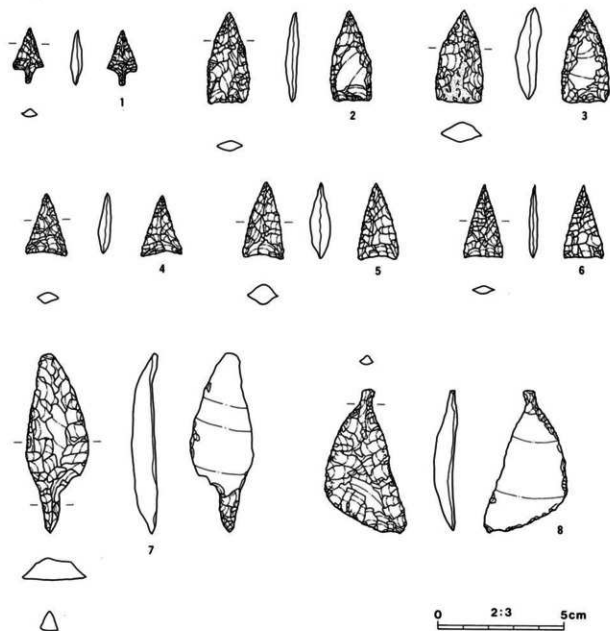
第2図版 大尻遺跡遺物出土状況  
(大尻遺跡発掘調査報告書、久慈市教育委員会、1987より転載)



0 1:2 5cm

第4图 大凤地区表採遺物(1)

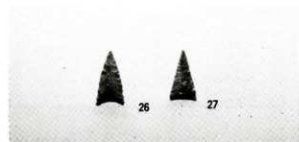
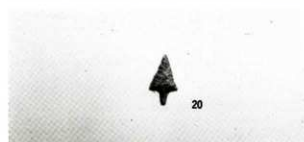
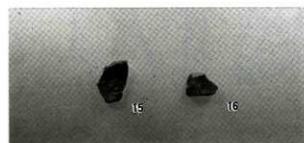
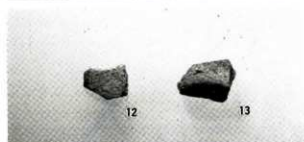
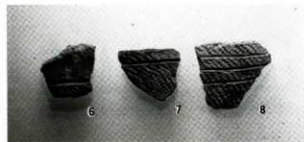
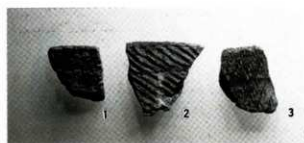
番号	遺跡名	部種	文 様	備 考	写真図版
1	大灰倉遺跡	深鉢	ループ文	織師舎	第3図版1
2	大灰倉遺跡	深鉢	乱L単節	織師舎	第3図版2
3	大灰倉遺跡	深鉢	乱糸文	織師舎	第3図版3
4	大灰倉遺跡	深鉢	縦筋文、乱L単節	織師舎	第3図版4
5	大灰倉遺跡	深鉢	縦筋文、隆帯上列形刺突	織師舎	第3図版5
6	大灰倉遺跡	深鉢	平行沈線、乱L単節		第3図版6
7	大灰倉遺跡	深鉢	平行沈線、乱L単節		第3図版7
8	大灰倉遺跡	深鉢	平行沈線、乱L単節		第3図版8
9	大灰倉遺跡	深鉢	平行沈線、円形刺突	織師舎	第3図版9
10	大灰倉遺跡	深鉢	沈線文、L単節		第3図版10
11	大灰倉遺跡	深鉢	平行沈線、L乱単節		第3図版11
12	大灰倉遺跡	深鉢	L乱単節		第3図版12
13	大灰倉遺跡	深鉢	縦筋網代柄		第3図版13
14	大灰倉遺跡	深鉢	不明		第3図版14
15	大灰倉遺跡	深鉢	縦筋文、平行沈線、交互刺突		第3図版15
16	大灰倉遺跡	深鉢	縦筋文		第3図版16
17	大灰倉遺跡	深鉢	口縁上斜目、隆帯上斜目	同一部群	第3図版17
18	大灰倉遺跡	深鉢	口縁上斜目、隆帯上斜目		第3図版18
19	大灰倉遺跡	深鉢	木目状乱糸文		第3図版19



( )は大須品の保存箱

品	遺跡名	器種	形制	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量 単位g	石質	写真図版	備考
1	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	平基有蓋	2.2, 1.2, 0.4	0.45	硬質頁岩	第3図版20	
2	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	平基無蓋	3.5, 1.6, 0.5	2.50	硬質頁岩	第3図版21	
3	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	平基無蓋	3.6, 1.9, 1.0	6.06	硬質頁岩	第3図版22	
4	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	凹基無蓋	2.4, 1.6, 0.5	1.06	硬質頁岩	第3図版23	
5	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	凹基無蓋	3.0, 1.6, 0.8	2.68	硬質頁岩	第3図版24	
6	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	平基無蓋	2.9, 1.6, 0.3	1.04	硬質頁岩	第3図版27	
7	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	槌	7.1, 2.5, 1.0	13.70	硬質頁岩	第3図版24	
8	大灰Ⅱ遺跡	石 鏃	槌 形	5.7, 3.2, 0.9	9.22	硬質頁岩	第3図版25	

第5図 大灰地区表探遺物(2)



第3図版 大尻地区表探遺物 (1~11、20~25大尻Ⅱ遺跡  
12・13大尻Ⅲ遺跡、14大尻Ⅴ遺跡  
15・16大尻Ⅵ遺跡、17~19、26・27大尻Ⅶ遺跡)





大戻地区遠景 (西より)



大戻地区近景 (南東より)



大戻Ⅰ・Ⅱ遺跡 (南東より)



大戻Ⅱ遺跡 (南西より)



大戻Ⅱ遺跡 (北西より)



大戻Ⅰ・Ⅱ遺跡 (北西より)



大戻Ⅵ遺跡 (南西より)



大戻Ⅶ遺跡 (東より)

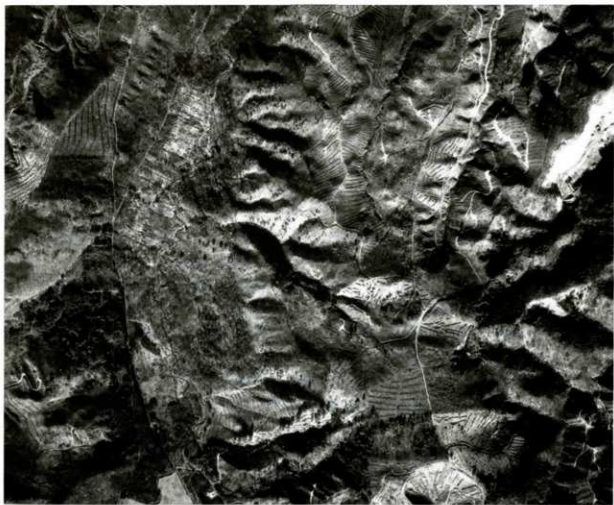
第4図版 大戻地区



番号	遺跡名	経緯線コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	二子段塚	J G 30. 0372	貝塚	縄文土器(前期・中期)、埋蔵人骨、埋蔵土器	長内町二子	平成元～2年度発掘調査
2	二子I遺跡	J G 30. 0383	集落跡	縄文土器(前・後・晩期)	長内町二子	平成元年度発掘調査
3	二子II遺跡	J G 30. 0375	集落跡	縄文土器(前・後・晩期)、弥生土器	長内町二子	平成元年度発掘調査
4	二子集落跡	J G 30. 2336	跡布地	縄文土器	長内町二子	
5	玉の結遺跡	J G 30. 0380	跡布地	縄文土器	長内町玉の結	

第6図 長内町二子地区遺跡分布図 (S-1: 20,000)





第5图版 長内町二子地区航空写真

## 2. 長内町二子地区

二子地区は、大尻地区より西方約1.5kmに位置し、大尻地区同様海岸に面した段丘面に遺跡が立地している。ただし、標高は約30～100mで、麦生・有家段丘の他、低位段丘である種市段丘（標高約15～40m）にも立地している。海岸までは徒歩ですぐであり、現在も集落住民の多くは漁業を生業としている。

現況は主に宅地、畑地であり、南方は山林である。全体的に南から北へ下る傾斜面であり、畑地は段々畑状に耕作され切り盛りがなされているものと思われる。

二子地区中央部には傾斜面に沿って一本の沢が北流しており、その沢を境に西側を二子Ⅰ遺跡、東側を二子Ⅱ遺跡とした。

二子Ⅰ遺跡は、縄文時代に属する遺物が多く散布しており、特に西半の玉の脇川寄りの縁辺部において散布密度が濃い。

二子Ⅱ遺跡は、縄文時代の遺物の他、弥生時代の遺物の散布も認められる。

二子Ⅰ・Ⅱ遺跡は、平成元年度県道野田長内線改良工事に伴い発掘調査が市教育委員会により実施されている。既存の道路を部分的に拡張するため、トレンチを設定し調査を行なったが遺跡は検出されず、縄文時代に属する遺物が若干含まれていたのみであった。黒土の堆積が厚く、砂利が多く混入しており、南側の斜面上部から流出した土が堆積したものと推定される。遺跡の中心は現在の道路より南側の斜面上方にあるものと推定される。

二子Ⅲ遺跡は、現在の二子集落から南方へ約1.5km、標高約190mに立地する。現況は畑地であるが周辺は山林である。縄文時代の遺物が散布している。

二子貝塚は、二子地区北西端部に位置し、標高約30m二子段丘面に立地する。西側には玉の脇川が流れている。現況は畑地及び荒地で、土器・石器の他に貝や獣骨の散布が認められる。

昭和24年道路改修工事が行なわれた際、大型透光器形土偶（第10図）がほぼ完全な状態で出土しており、昭和48年土偶は市指定文化財となるとともに、二子貝塚も市指定史跡となった。

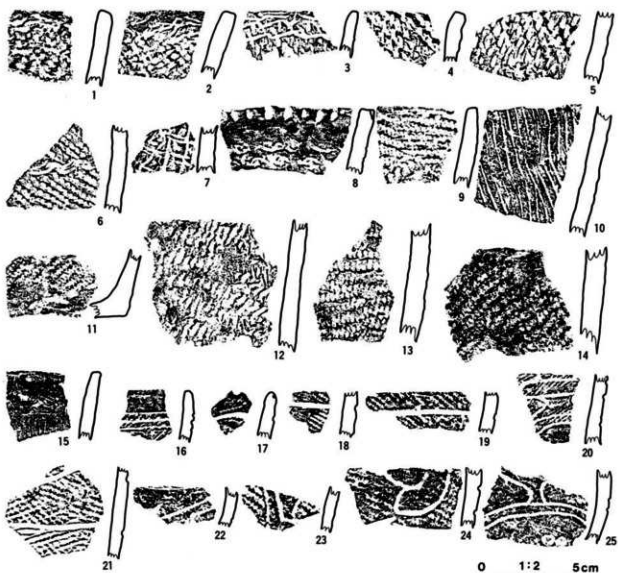
二子貝塚は、平成元年度及び平成2年度に、県道改良工事に伴い発掘調査が市教育委員会により実施されている。その結果、縄文時代後～晩期にかけて形成された貝層及び埋葬人骨3体、埋葬2基、土壇3基、集石遺構1基が検出されている。遺物は土器・石器の他、土偶、耳飾りなどの土製品、石棒、石刀、岩板、ヒスイ製玉類などの石製品や琥珀などが出土している。

また、骨角器としては釣針、骨針、骨篋、根挟み、弭形製品、牙製垂飾品などが、貝製品としては貝輪、巻貝製垂飾品などが出土している。（第7図版）

自然遺物としては、各種貝殻、獣骨、魚骨、鳥骨などの他、堅果類の炭化物が出土している。

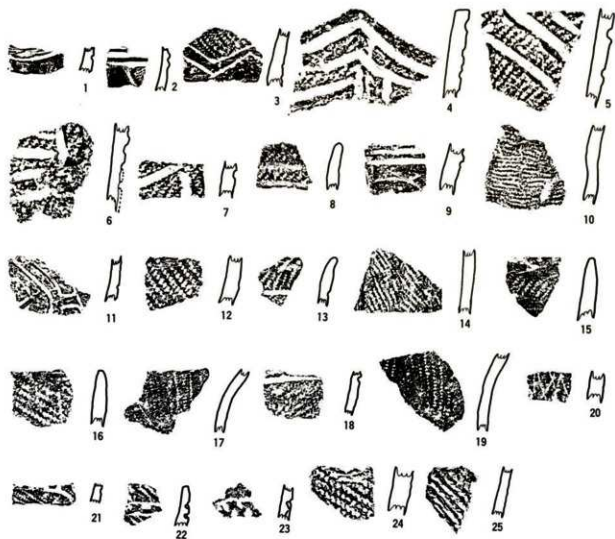
二子貝塚の資料は現在整理作業中である。

玉の脇川遺跡は、東西に沢がそれぞれ流れており、その沢に開析されて残った段丘に立地する。現在は岩手県立久慈水産高等学校の校舎及び山林となっている。



序号	编号	纹样	经纬	图案	写真图版
1	二子1	深体	斜纹斜纹文、粗斜文		第8图版1
2	二子1	深体	斜纹斜纹文、粗斜文		第8图版2
3	二子1	深体	斜纹斜纹文、L、R单部		第8图版3
4	二子1	深体	R、L单部		第8图版4
5	二子1	深体	R、L单部		第8图版5
6	二子1	深体	R、L单部		第8图版6
7	二子1	深体	斜纹斜纹文		第8图版7
8	二子1	深体	口部上斜纹、斜纹斜纹文		第8图版8
9	二子1	深体	R、L单部	横斜吉	第8图版9
10	二子1	深体	粗斜文	横斜吉	第8图版10
11	二子1	深体	R、L单部		第8图版11
12	二子1	深体	粗斜文		第8图版12
13	二子1	深体	L、R单部	横斜吉	第8图版13
14	二子1	深体	L、R单部	横斜吉	第8图版14
15	二子1	深体	粗文		第8图版15
16	二子1	深体	沈纹文、L、R单部		第8图版16
17	二子1	深体	斜纹口部、斜纹斜纹文、沈纹文		第8图版17
18	二子1	深体	沈纹、L、R单部		第8图版18
19	二子1	深体	沈纹、L、R单部		第8图版19
20	二子1	深体	沈纹文、L、R单部		第8图版20
21	二子1	深体	沈纹文、L、R单部		第8图版21
22	二子1	深体	沈纹文		第8图版22
23	二子1	深体	沈纹文、L、R单部		第8图版23
24	二子1	深体	沈纹文、L、R单部		第8图版24
25	二子1	深体	沈纹文		第8图版25

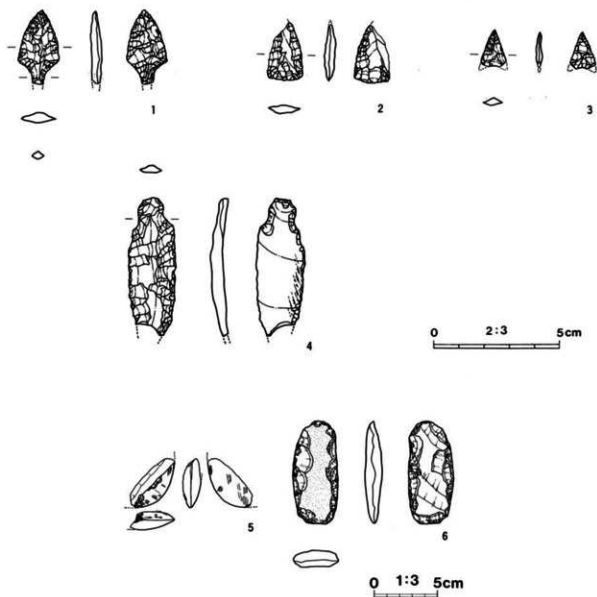
第7图 二子地区表探遗物(1)



0 1:2 5cm

序号	器物名	器种	文 饰	编 号	写 真 图 版
1	二子区透钵	钵	沈纹文		第 8 图版 26
2	二子区透钵	钵	沈纹文、磨消纹文、L 瓦单部		第 8 图版 27
3	二子区透钵	深钵	沈纹文、瓦 L 单部		第 8 图版 28
4	二子区透钵	深钵	流纹口缘、沈纹文、瓦 L 单部	同一器种	第 9 图版 1
5	二子区透钵	深钵	流纹口缘、沈纹文、瓦 L 单部		第 9 图版 2
6	二子区透钵	深钵	流纹口缘、沈纹文、瓦 L 单部		第 9 图版 3
7	二子区透钵	深钵	流纹口缘、沈纹文、瓦 L 单部		第 9 图版 4
8	二子区透钵	深钵	L 瓦单部		第 9 图版 5
9	二子区透钵	深钵	沈纹		第 9 图版 6
10	二子区透钵	深钵	L 瓦单部		第 9 图版 7
11	二子区透钵	深钵	沈纹文	第 9 图版 8	
12	二子区透钵	深钵	磨消纹文	第 9 图版 9	
13	二子区透钵	深钵	瓦 L 单部	第 9 图版 10	
14	二子区透钵	深钵	L 瓦单部	第 9 图版 11	
15	二子区透钵	深钵	L 瓦单部	第 9 图版 12	
16	二子区透钵	深钵	L 瓦单部	第 9 图版 13	
17	二子区透钵	深钵	磨消文	第 9 图版 14	
18	二子区透钵	深钵	沈纹、L 瓦单部	第 9 图版 15	
19	二子区透钵	深钵	磨消文	第 9 图版 16	
20	二子区透钵	深钵	磨消纹文	第 9 图版 17	
21	二子区透钵	深钵	沈纹文、瓦 L 单部	第 9 图版 18	
22	二子区透钵	深钵	平行沈纹、交互磨消、瓦 L 单部	第 9 图版 19	
23	二子区透钵	深钵	平行沈纹、交互磨消	第 9 图版 20	
24	二子区透钵	深钵	磨消纹文	第 9 图版 21	
25	二子区透钵	深钵	L 瓦部	第 9 图版 22	

第 8 图 二子地区表探遗物 (2)



( )は欠損品の現存値

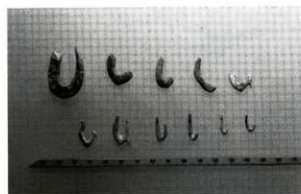
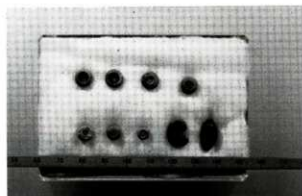
品	遺跡名	器種	形制	計測値、長さ、単位cm厚さ、単位	重量	単位g	材質	写真図版	備	考
1	二子I遺跡	石 鏃	凸基有底	(2.9) 、 1.6、 0.4	( 1.80)		硬質頁岩	第9図版23		
2	二子I遺跡	石 鏃	平基無底	(2.3) 、 (1.4) 、 (0.4)	( 1.10)		硬質頁岩	第9図版24		
3	二子II遺跡	石 鏃	凹基無底	(1.5) 、 (1.0) 、 (0.2)	( 0.25)		瑪 瑙	第9図版26		
4	二子II遺跡	石 器	短 形	(5.5) 、 1.9、 0.5	( 5.47)		硬質頁岩	第9図版27		
5	二子I遺跡	磨製石器		(3.6) 、 (3.4) 、 (1.5)	(13.05)		流紋岩	第9図版28		
6	二子I遺跡	打製石器	短 形	8.1、 3.6、 1.4	39.52		流紋岩	第9図版29		

第9図 二子地区表探遺物(3)

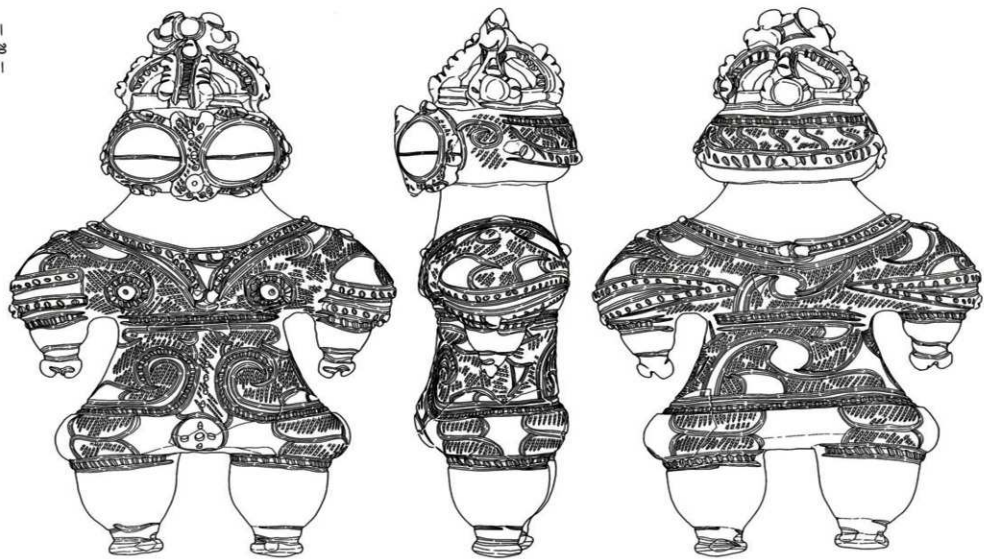


第6図版 二子貝塚近景（上段東より、下段南東より）





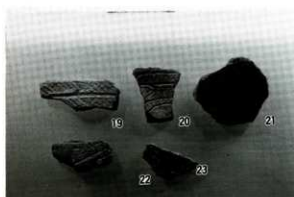
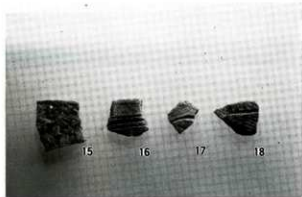
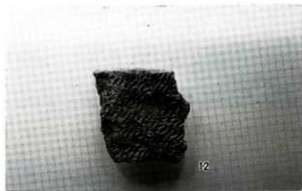
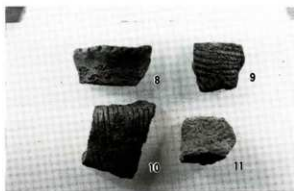
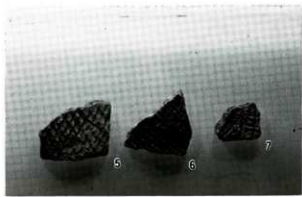
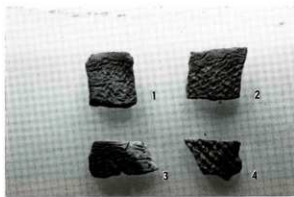
第7圖版 二子貝塚出土遺物



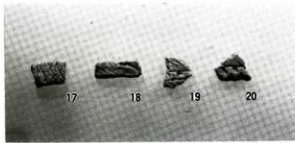
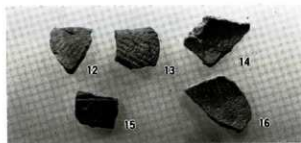
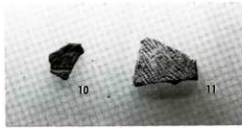
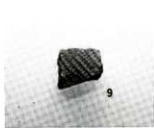
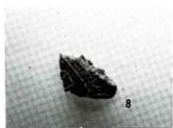
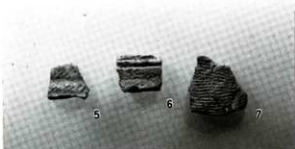
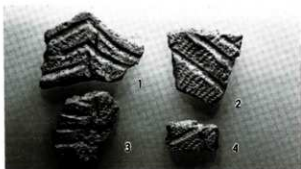
第10图 二子貝塚出土遮光器形土偶 (昭和24年出土、佐々木和久氏原图)

0 1:2 10cm





第8图版 二子地区表探遺物(1)(1~28二子I遺跡)



第9图版 二子地区表探遺物(2) (1~20·26·27二子Ⅱ遺跡)  
 (21·22二子Ⅲ遺跡)  
 (23·24·28·29二子Ⅰ遺跡)



二子 I 遺跡 (南西より)



二子 I 遺跡 (北より)



二子 I 遺跡 (南東より)



二子 II 遺跡 (南東より)



二子 II 遺跡 (東より)



二子 II 遺跡 (南西より)



二子 II 遺跡 (南東より)



二子 II 遺跡 (南西より)

第10図版 二子地区

### 3. 長内町元木沢・平沢・上長内・中長内・下長内地区

長内川の支流である小屋畑川東側の長内地区は、近年バイパス建設等により開発が進んでいる地域で、それに伴い発掘調査も多く実施されている。小屋畑川右岸には、大小の沢によって開析され西に張り出す丘陵が連続しており、その丘陵に遺跡が立地している。

また、市街地から約2kmの平沢地区には広大な平坦面が形成されており、原始・古代の大規模な複合集落跡が確認されている。

諏訪下Ⅰ・Ⅱ遺跡は、久慈湾に面した標高約30mの段丘面に立地する。現況は畑地及び宅地である。縄文時代及び古代に属する遺物が表採される。

平沢Ⅰ・Ⅱ遺跡は、およそ50万㎡にわたる広大な遺跡である。平沢工業団地造成計画が立案され、遺跡の範囲確認調査が市教育委員会により昭和57年から昭和59年に実施された。その結果、ほぼ全面にわたり縄文時代から古代に属する多量の遺物と多数の遺構が発見された。

平沢Ⅱ遺跡は、昭和57年工業団地造成に伴い発掘調査が市教育委員会により実施され、古代の堅穴住居跡2棟が検出されている。

平沢Ⅰ遺跡は、昭和62年久慈市勤労者屋外体育施設建設工事に伴い、岩手県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行なわれ、縄文時代前期の堅穴住居跡6棟、後期の堅穴住居跡2棟、ピット類25基、陥し穴状遺構38基、古代の堅穴住居跡16棟、ピット類9基等が検出されている。(第14図) また、南側斜面には鉄に関係する遺構が存在し、多量の鉄滓及びフイゴ羽口が散布している。時期の詳細は不明であるが中世～近世と推定される。(第13図版26)

平沢Ⅲ～Ⅴ遺跡は、現況は山林であるが、林道を設けた際の削土箇所において遺物が表採される。

中長内遺跡は平沢地区北西方向の標高約30～40mの種市段丘面に立地する。

昭和59年度から昭和61年度にかけて、国道45号線久慈バイパス建設に伴い、市教育委員会によって発掘調査が行なわれ、縄文時代堅穴住居跡9棟、堅穴状遺構1基、集石遺構4基、陥し穴状遺構39基、土壇39基、古代堅穴住居跡64棟、堅穴状遺構2基、円形周溝状遺構2基、土壇39基等が検出されている。特に、古代の堅穴住居跡からは多くの琥珀の玉未製品が出土し、日本最大の琥珀産地である当地方において、琥珀の加工が行なわれた遺跡として注目される。(第15・16図)

④

番号	遺跡名	部遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	諏訪下Ⅰ遺跡	J.G.30.0204	散布地	縄文土器、土師器	長内町元木沢	
2	諏訪下Ⅱ遺跡	J.G.30.0202	散布地	縄文土器、土師器	長内町元木沢	
3	平沢Ⅰ遺跡	J.G.30.0199	集落跡	縄文前期～古代堅穴住居跡	長内町平沢	昭和62年度発掘調査
4	平沢Ⅱ遺跡	J.G.30.0202	集落跡	古代堅穴住居跡	長内町平沢	昭和59年度発掘調査
5	平沢Ⅲ遺跡	J.G.30.2204	散布地		長内町平沢	
6	平沢Ⅳ遺跡	J.G.30.1200	散布地	縄文土器	長内町平沢	
7	平沢Ⅴ遺跡	J.G.30.1179	散布地	縄文土器	長内町平沢	
8	平沢Ⅵ遺跡	J.G.30.1167	散布地	縄文土器	長内町平沢	
9	平沢Ⅶ遺跡	J.G.30.1184	散布地	縄文土器	長内町平沢	
10	中長内Ⅰ遺跡	J.G.30.0068	集落跡	縄文前・後期、古代堅穴住居跡	長内町中長内	昭和59～61年度発掘調査
11	中長内Ⅱ遺跡	J.G.30.0131	集落跡	土師器	長内町中長内	
12	上野山遺跡	J.G.30.1008	集落跡	古代堅穴住居跡	長内町	昭和57・58年度発掘調査
13	小笠原遺跡	J.G.30.1027	集落跡	古代堅穴住居跡	長内町	昭和58年度発掘調査
14	上長内Ⅰ遺跡	J.G.30.1047	集落跡	縄文土器、土師器	長内町上長内	
15	上長内Ⅱ遺跡	J.G.30.1067	散布地		長内町上長内	
16	上長内Ⅲ遺跡	J.G.30.1057	散布地		長内町上長内	
17	上長内Ⅳ遺跡	J.G.30.1013	散布地	縄文土器	長内町上長内	
18	平沢一塚塚	J.G.30.2208	一塚塚	二基一対のうち一基残存。鎌倉時代	長内町平沢	

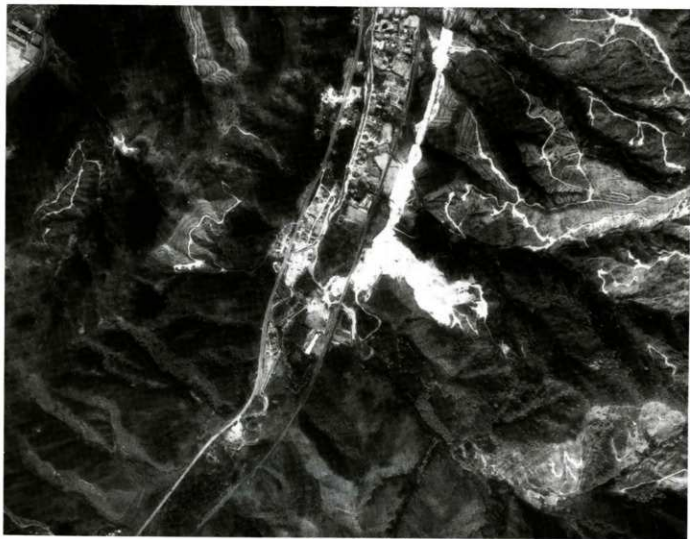


第11圖 長内町元木沢・平沢・上長内・中長内・下長内地区遺跡分布図 (S-1 : 20,000)

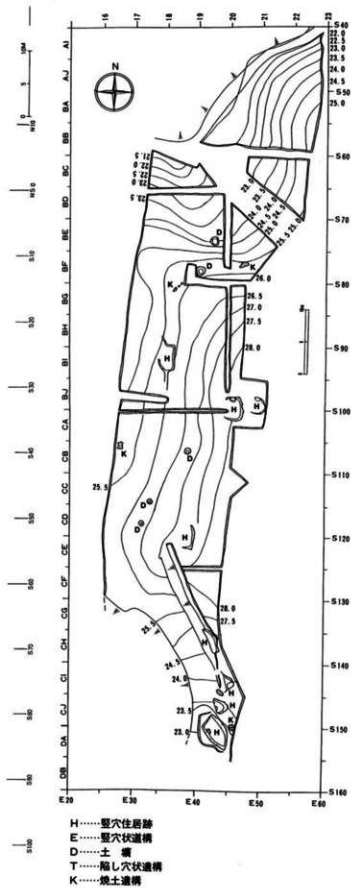
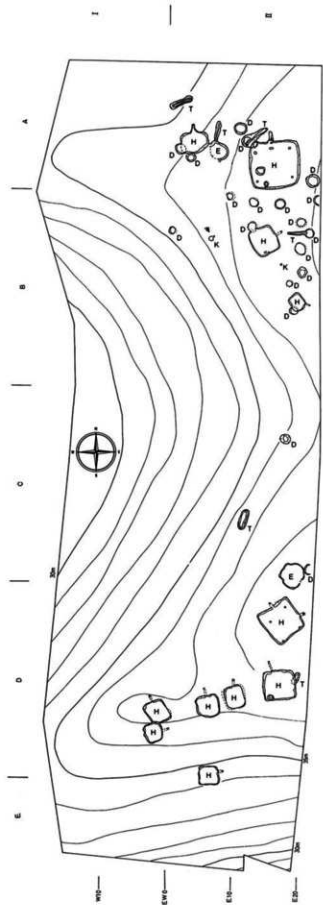




第11図版 長内町元木沢・平沢・上長内・中長内・下長内地区航空写真



第12図版 長内町上長内地区航空写真

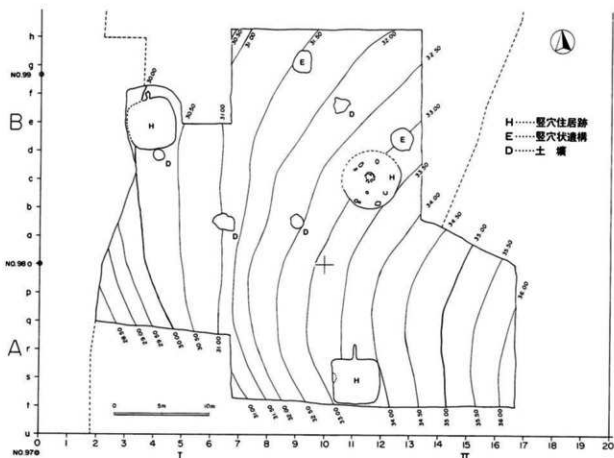


- H.....竪穴住居跡
- E.....竪穴伏道構
- D.....土 竪
- T.....陥し穴伏道構
- K.....焼土遺構

第12図 小屋煙遺跡、上野山遺跡遺構配置図

(岩手県埋文センター文化財調査報告書第80集「小屋煙遺跡発掘調査報告書」)  
 (岩手県埋文センター文化財調査報告書第67集「上野山遺跡発掘調査報告書」  
 より加筆転載)





第13図 上野山(Ⅱ)遺跡遺構配置図 (久慈市埋蔵文化財報告書第4集「上野山(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書」より加筆転載)

上野山遺跡は、昭和57年度国道45号線久慈バイパス建設に伴い岩手県埋蔵文化財センターによって、昭和58年度資材置場造成に伴い市教育委員会によってそれぞれ発掘調査が行なわれた。埋蔵文化財センターの調査区においては、縄文時代の竪穴住居跡4棟、古代の竪穴住居跡4棟、時期不明のピット5基、焼土4基が検出され(第12図)、市教育委員会調査区においては、縄文時代の竪穴住居跡1棟、古代の竪穴住居跡2棟、時期不明の竪穴状遺構2基、土坑4基が検出されている。(第13図)

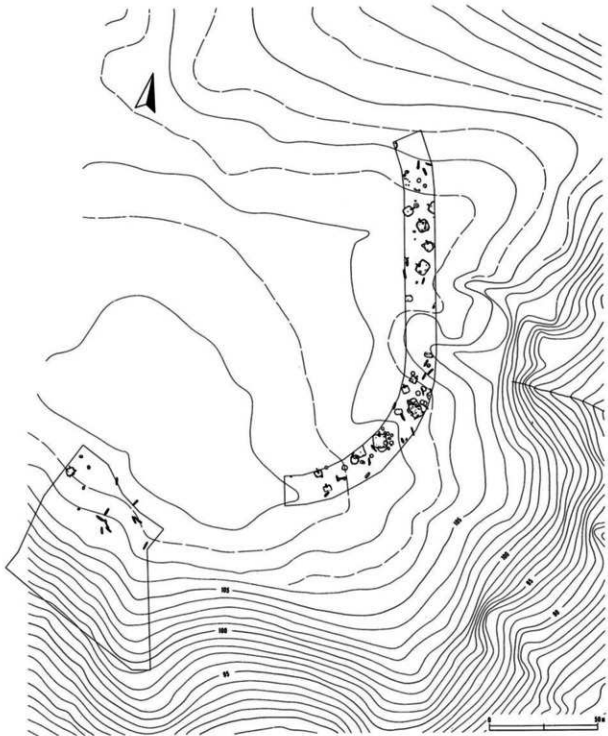
小屋畑遺跡も、国道45号線建設に伴い岩手県埋蔵文化財センターによって昭和58年度発掘調査が行なわれ、古代の竪穴住居跡8棟、縄文時代のピット類2基、陥し穴状遺構6基等が検出されている。(第12図)

上長内Ⅰ-Ⅲ遺跡は、小屋畑遺跡の南方の丘陵に並んで存在する。西及び、北西方向に張り出した地形に立地する。

上長内Ⅳ遺跡は、小屋畑川と長内川に挟まれ、北東方向に延びる丘陵の先端部に立地する。やせ尾根状を呈する地形であるが、主に東半部において縄文時代の遺物が少量散布している。

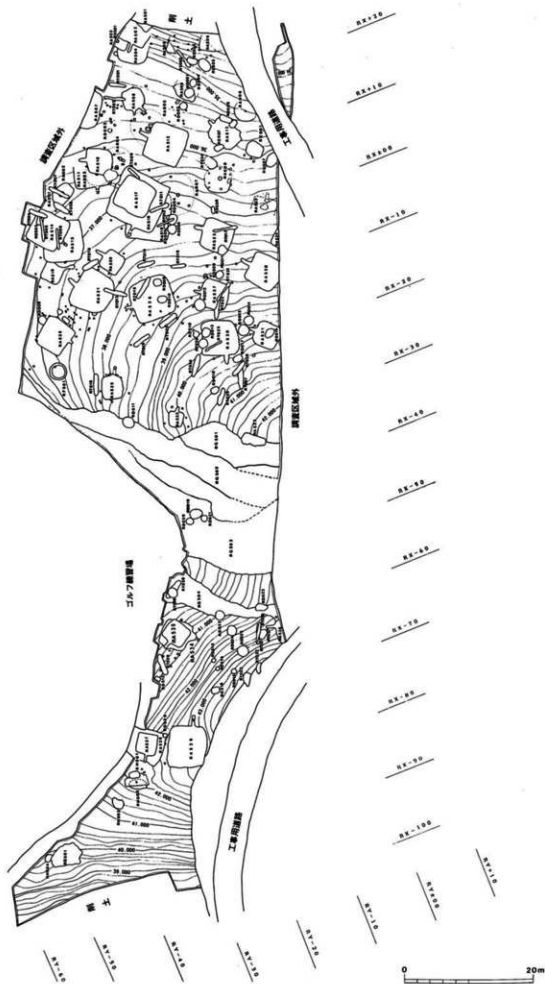
平沢一里塚は、JR東日本久慈駅より南西へ約4kmに位置する。長内・宇部を結ぶ浜街道沿線に設けられたものと推定される。現在の林道脇に2基一對のうち1基のみが残存している。もう1基は戦後間もない頃、林道を整備拡張した際に破壊されたようである。

直径約10m、高さ約5mを測る。

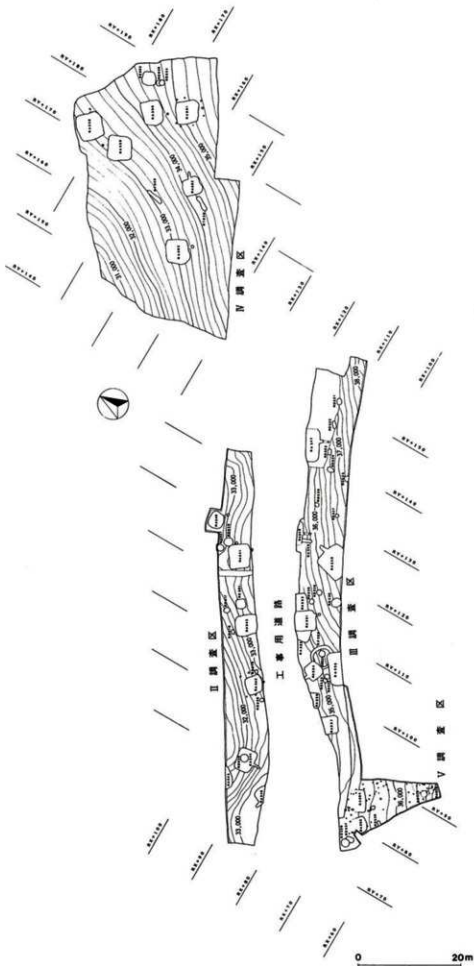


第14図 平沢Ⅰ遺跡遺構配置図

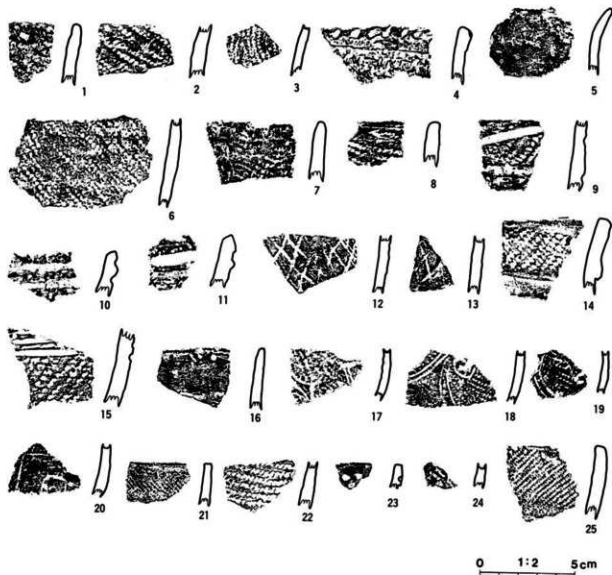
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第125集  
「平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書」より転載)



第15図 中長内遺跡Ⅰ調査区遺構配置図  
(久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集)  
(「中長内遺跡」より転載)



第16図 中長内遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ調査区遺構配置図  
 (久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集  
 「中長内遺跡(Ⅱ)」より転載)



番号	遺跡名	器種	文 様	備 考	写真図番
1	諏訪下I遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版1
2	諏訪下I遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版2
3	諏訪下I遺跡	深鉢	R.L.単部		第1300版3
4	平沢百遺跡	深鉢	口唇上斜目、ループ文		第1300版4
5	平沢百遺跡	深鉢	無文		第1300版5
6	平沢百遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版6
7	平沢百遺跡	深鉢	磨滅のため不明		第1300版7
8	平沢百遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版8
9	平沢百遺跡	深鉢	沈線文、R.L.単部		第1300版9
10	平沢百遺跡	深鉢	沈線?、磨滅のため不明		第1300版10
11	平沢百遺跡	深鉢	沈線		第1300版11
12	平沢百遺跡	深鉢	網目状押赤文		第1300版12
13	平沢百遺跡	深鉢	網目状押赤文		第1300版13
14	平沢百遺跡	深鉢	斜り返し口縁、L.R.単部		第1300版14
15	平沢百遺跡	深鉢	沈線、R.L.単部		第1300版15
16	平沢百遺跡	深鉢	無文		第1300版16
17	平沢百遺跡	鉢	沈線文、L.R.単部	同一器種	第1300版17
18	平沢百遺跡	鉢	沈線文、L.R.単部		第1300版18
19	平沢百遺跡	鉢	沈線文、L.R.単部		第1300版19
20	平沢百遺跡	鉢	沈線文、R.L.単部		第1300版20
21	平沢百遺跡	深鉢	R.L.単部		第1300版21
22	平沢百遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版22
23	平沢百遺跡	深鉢	口唇上横文斜目、円形刺突		第1300版23
24	平沢百遺跡	深鉢	R.L.単部		第1300版24
25	平沢百遺跡	深鉢	L.R.単部		第1300版25

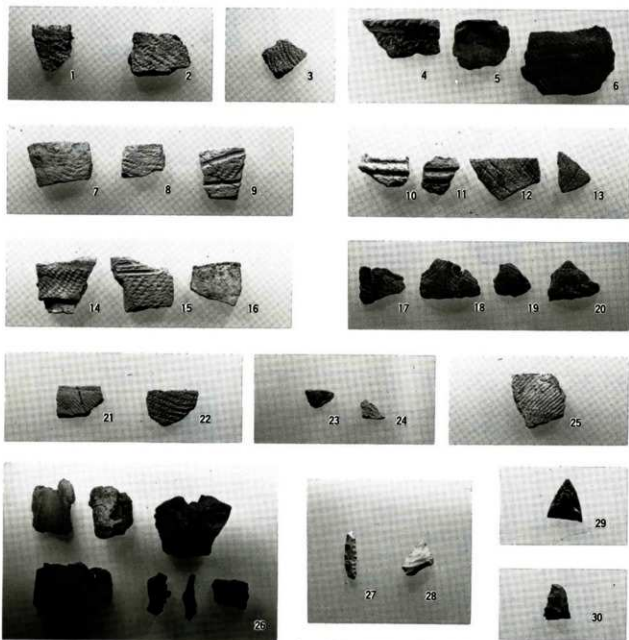
第17図 元木沢・平沢地区表採遺物



( )は欠損品の現存値

品	遺跡名	器種	形勢	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量 単位g	石質	写真図版	備	考
1	平沢IV遺跡	石 鏃	平基無底	2.4, 2.0, 0.5	2.90	硬質頁岩	第13図版29		
2	平沢IV遺跡	?		(2.1), (1.6), (0.5)	(1.98)	硬質頁岩	第1300版20		

第18図 平沢地区表採遺物



第13図版 元木沢・平沢地区表採遺物

( 1・2 諏訪下I遺跡、3 諏訪下II遺跡  
 4~9・27・28 平沢II遺跡、10~20、29 平沢IV遺跡  
 21・22 平沢V遺跡、23・24・30 平沢VI遺跡  
 25 平沢VII遺跡、26 平沢I遺跡フイゴ羽口 )



諏訪下Ⅰ遺跡 (南より)



諏訪下Ⅱ遺跡 (南東より)



平沢Ⅰ・Ⅱ遺跡 (南西より)



平沢Ⅰ遺跡 (南より)



平沢Ⅰ遺跡 (西より)



平沢Ⅴ遺跡 (北西より)

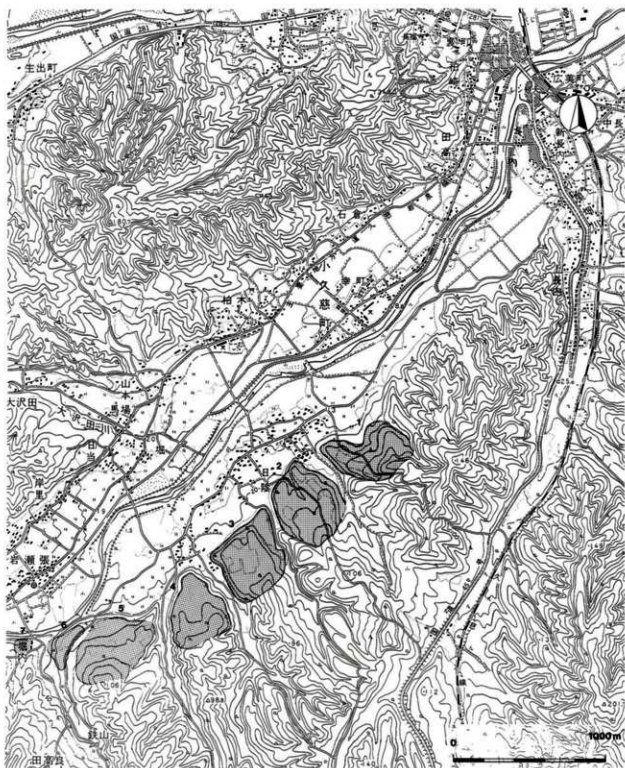


平沢Ⅵ遺跡 (東より)



平沢一里塚 (東より)





番号	遺跡名	遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	日島遺跡	JF39-2268	散布地	縄文土器、土師器	小久慈町日吉町	
2	跡の中塚跡	JF39-2285	城址跡	堀、土器、縄文土器	小久慈町日吉町	別称上日輪堀
3	日吉遺跡	JF49-0803	散布地	縄文土器	小久慈町日吉町	
4	栗田島地蔵遺跡	JF49-0250	墓塚跡		小久慈町日吉町	
5	栗田島地蔵遺跡	JF49-0192	墓塚跡	簡し穴状遺構、古代竪穴住居跡	小久慈町堀内	昭和60年度発掘調査
6	堀内1遺跡	JF49-0190	散布地	縄文土器	小久慈町堀内	
7	堀内2遺跡	JF49-0088	散布地	縄文土器	小久慈町堀内	

第19図 小久慈町日吉・堀内地区遺跡分布図 (S=1:25,000)





第15図版 小久慈町日吉・堀内地区航空写真

#### 4. 小久慈町日吉・堀内地区

長内川と小屋畑川に挟まれ、北東に延びる丘陵は大小の沢によって開析され、急峻な地形を呈している。小屋畑川左岸の丘陵の南西側斜面は山林地として利用されているため丘陵の先端部に所在する上長内Ⅳ遺跡以外は遺跡の所在は確認されなかった。

しかしながら、長内川右岸の丘陵北西側斜面においては、張り出し状の地形に遺跡の存在が認められる。丘陵の尾根に源をもつ沢が主に北西、北方向に流れ、それらの沢によって開析され、張り出し状地形となった丘陵近くの緩斜面に遺跡が立地する。特に日陰遺跡、館の台館跡、日吉遺跡、兼田農場東遺跡、兼田農場遺跡はそれぞれ沢を挟み連続して立地しているうえいずれも大規模な遺跡であるものと推定される。

日陰遺跡は神社敷地、山林であるが一部造成されている。その造成地において遺物の散布密度は薄いが縄文時代及び古代の土器表採される。

館の台館跡は、現況は日吉神社の境内及び山林地である。神社の境内には宝暦3年銘の石造青面金剛像が存在しており、市指定文化財となっている。北東側及び南西側には沢が流れ、急斜面となっている。北西に張り出した丘陵状の地形を呈し、標高約40～50mである。日吉神社境内において縄文土器が表採される。本遺跡は館跡であり、丘陵基部には幅約10m、深さ約2mの空堀が約180mにわたり残存している。(第20図) 館主は、館権の守と称する豪族が立て籠もったとされており、後述する小久慈館館主とされている日戸氏と同時代の頃(天正年間)と推定されているが詳細は不明である。(註1)

日吉遺跡は寺敷地、墓地及び山林である。標高約40～60mで平坦面が広く形成されている。縄文土器の散布が認められる。

兼田農場東遺跡は標高約50～70mの平坦面に立地する。現状は山林である。

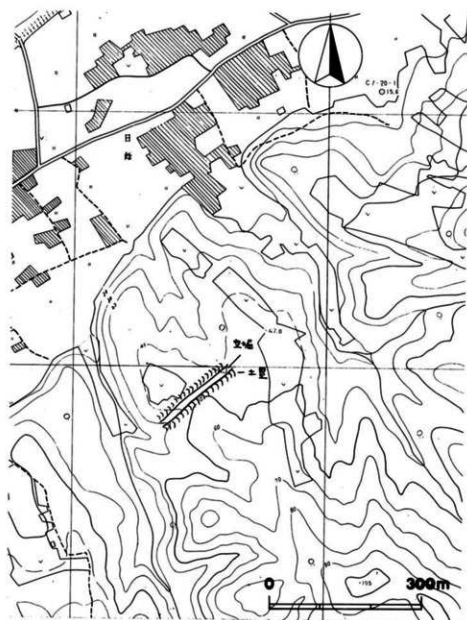
兼田農場遺跡は標高約40～60mの南東から北西に下る緩斜面に立地し、現状は主に畑地である。昭和60年に精神薄弱者更生施設建設に伴い発掘調査が行なわれ、縄文時代の陥し穴状遺構51基、ピット7基、古代の竪穴住居跡10棟、ピット2基等が検出されている。

堀内Ⅰ遺跡は現状は山林及び蒼前神社境内である。西側の長内川堤防近くのカット面に縄文土器が包含されている。

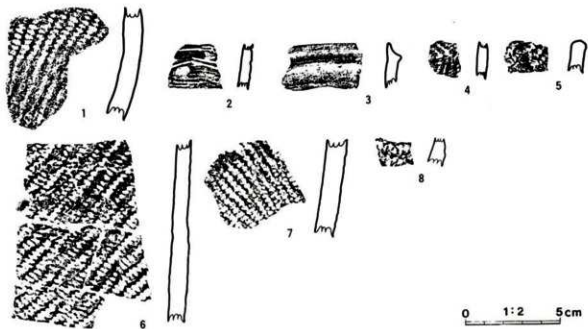
堀内Ⅱ遺跡は長内川右岸に立地する。現状は畑地となっており、畑地において縄文土器が表採される。

#### 参考文献

- 註1 岩手県教育会九戸郡部会編『九戸郡誌』復刻版 臨川書店 昭和61年  
本堂寿一『日本城郭大系』第2巻 新人物往来社 昭和55年



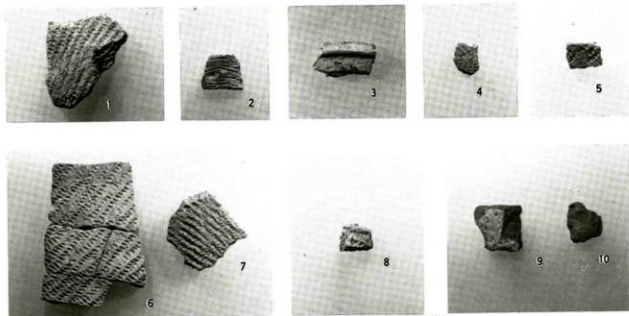
第20図 館の台館跡地形図



土器一覧表 ②

番号	遺跡名	器種	文 様	備 考	写真図版
1	日陰遺跡	深鉢	R.L.単部		第16図版 1
2	日陰遺跡	深鉢	沈線文、R.L.単部		第16図版 2
3	日陰遺跡	土師器	口縁部に突帯		第16図版 3
4	館の台館跡	深鉢	R.L.単部		第16図版 4
5	日吉遺跡	深鉢	L.R.単部		第16図版 5
6	堀内I遺跡	深鉢	R.L.単部		第16図版 6
7	堀内I遺跡	深鉢	L.R.単部		第16図版 7
8	堀内I遺跡	深鉢	L.R.単部		第16図版 8

第21図 日吉・堀内地区表探遺物



第16図版 日吉・堀内地区表探遺物 (1~3日陰遺跡、4館の台館跡  
5日吉遺跡、6~8堀内I遺跡、9・10堀内II遺跡)



日陰遺跡 (北東より)



日陰遺跡 (北西より)



館の台館跡 (北より)



館の台館跡 (北西より)



日吉遺跡 (西より)



兼田農場東遺跡 (西より)



兼田農場遺跡 (北西より)



兼田農場遺跡 (南より)



堀内Ⅰ遺跡 (南より)



堀内Ⅰ遺跡 (西より)



堀内Ⅱ遺跡 (北東より)

第18図版 日吉・堀内地区 (2)



## 5. 小久慈町田高良・横合・澁子・古山地区

本地区は、小久慈町の南端部にあたり、山根町及び字部町との境界に近い地区である。南西側の丘陵に源を発すると思われる小規模な沢が主に北東方向に流れ、それらが合流し中規模な沢となって北流し、堀内地区で長内川と合流している。その中規模な沢に沿って田高良・横合・澁子・古山の各集落が点在している。

いずれの地区も沢沿いの土地を利用した水田や畑地等がみられるが、集落からやや離れた傾斜地はほとんどが山林である。

田高良地区は全体的には南西から北東に下る比較的緩やかな地形である。

田高良Ⅰ遺跡は南西から北東に下る緩斜面に立地する。現況は畑地で遺物の散布密度は薄い。縄文時代に属する遺物が表採される。

田高良Ⅱ遺跡は南西から北東に下る緩斜面に立地し、現況は畑地である。縄文時代に属する遺物が表採される。

横合地区は西側と東側に丘陵が北に延びており、その丘陵に挟まれた沢沿いに集落が営まれている。

横合Ⅰ遺跡は南西から北東に下る緩斜面に立地する。現況は山林で、作業用の道路のカット面において縄文時代に属する遺物が表採される。

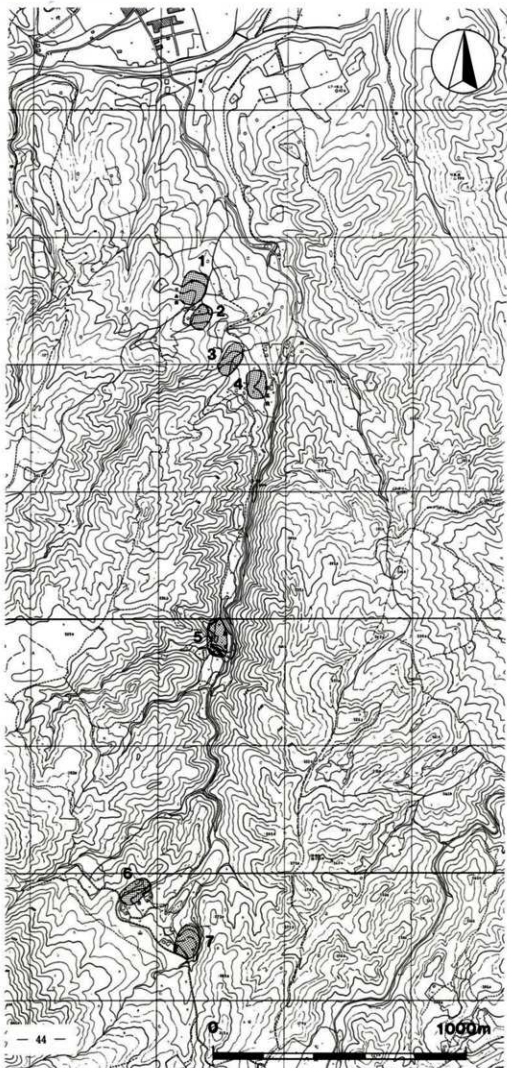
横合Ⅱ遺跡は西から東に下る緩斜面に立地し、現況は畑地である。縄文時代に属する遺物が表採される。

澁子地区は西側の標高約250mのあたりには澁子平と呼ばれる広大な平坦面が形成されているが、その他は急峻な地形である。沢と丘陵に挟まれた西から東に下る狭い傾斜面に現在集落が営まれている、その民家付近の畑地において土師器が表採される。散布密度は薄く、遺跡の規模は小さいものと推定される。

古山地区は標高約250mに相当し、久慈市では最も高位段丘である水無段丘面(標高220～280m)に立地する。

古山Ⅰ遺跡は南西から北東に延びる尾根状地形の南東斜面に立地する。縄文時代に属する遺物が表採される。

古山Ⅱ遺跡は南から北に下る緩斜面に立地し、東側には規模の大きい沢が北流しており、遺跡の立地条件としては良好で、遺物の散布密度も濃い。畑地として利用されており、主に縄文時代前期・後期の遺物が主体を占める。遺跡近くの民家では畑地から採集した石礫を標本箱に並べて保管していた。集落跡が存在する可能性が高いものと推定される。

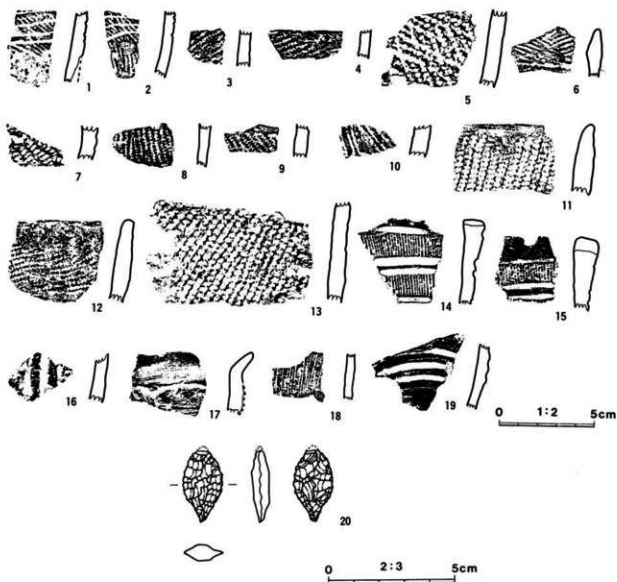


第22図 小久慈町田高良・横合・旗子・古山地区遺跡分布図 (S-1 : 15,000)



第19図版 小久慈町田高良・横合・鏡子地区航空写真

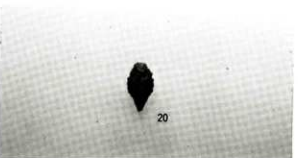
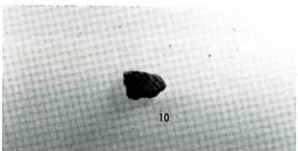
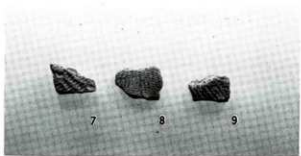
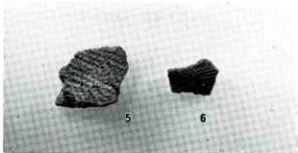
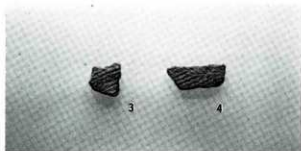
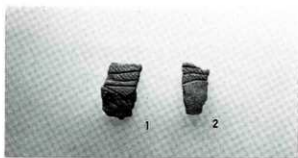
番号	遺跡名	遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	田高良Ⅰ遺跡	J F 49. 1170	散布地	縄文土器	小久慈町田高良	
2	田高良Ⅱ遺跡	J F 49. 1181	散布地	縄文土器	小久慈町田高良	
3	横合Ⅰ遺跡	J F 49. 2101	散布地	縄文土器	小久慈町横合	
4	横合Ⅱ遺跡	J F 49. 2103	散布地	縄文土器	小久慈町横合	
5	鏡子遺跡	J F 59. 0111	散布地	土師器	小久慈町鏡子	
6	古山Ⅰ遺跡	J F 59. 1018	散布地	縄文土器	小久慈町古山	
7	古山Ⅱ遺跡	J F 59. 1130	集落跡	縄文土器(前・後期)	小久慈町古山	



番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	田高良上遺跡	深鉢	沈線文、直L卑部		第20図版1
2	田高良上遺跡	深鉢	沈線文、直L卑部		第20図版2
3	田高良上遺跡	深鉢	L直卑部		第20図版3
4	田高良上遺跡	深鉢	L直卑部		第20図版4
5	横合丁遺跡	深鉢	L直卑部		第20図版5
6	横合丁遺跡	深鉢	波状L線、直L卑部		第20図版6
7	横合目遺跡	深鉢	直L卑部	編織古	第20図版7
8	横合目遺跡	深鉢	直L卑部		第20図版8
9	横合目遺跡	深鉢	直L卑部		第20図版9
10	古山目遺跡	深鉢	杵杵文		第20図版10
11	古山目遺跡	深鉢	襷目織文		第20図版11
12	古山目遺跡	深鉢	L直卑部		第20図版12
13	古山目遺跡	深鉢	襷目織文		第20図版13
14	古山目遺跡	深鉢	口唇突起上刻目、沈線、集合沈線		第20図版14
15	古山目遺跡	深鉢	口唇上突起、沈線、集合沈線		第20図版15
16	古山目遺跡	深鉢	縹帯		第20図版16
17	古山目遺跡	深鉢	無文、器面割落		第20図版17
18	古山目遺跡	深鉢	沈線		第20図版18
19	古山目遺跡	鉢	沈線		第20図版19

凡	遺跡名	器種	形制	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量 単位g	石質	写真図版	備考
20	古山目遺跡	石 鉢	凸唇有蓋	(2.8、1.6、0.7)	(2.67)	硬質頁岩	第20図版20	( )は欠損品の保存箱

第23図 田高良・横合・古山地区表採遺物



第20図版 田高良・横合・跳子・古山地区表探遺物

(1・2田高良Ⅰ遺跡、3・4田高良Ⅱ遺跡)  
5・6横合Ⅰ遺跡、7~9横合Ⅱ遺跡  
10古山Ⅰ遺跡、11~20古山Ⅱ遺跡  
21~23跳子遺跡





田高良 I 遺跡 (南より)



田高良 II 遺跡 (南西より)



横合 II 遺跡 (北西より)



横合 II 遺跡 (北西より)



鏡子遺跡 (北より)



古山 I 遺跡 (南東より)



古山 II 遺跡 (南西より)



## 6. 柏崎、長内町田高、小久慈町柏木・秋葉・大沢田地区

久慈川と長内川に挟まれ北東に延びる丘陵は久慈地区、長内地区、小久慈地区、大川目地区に分けられているが、地形的に町地区毎に分割できないため、長内川支流の大沢田川以北を一括して取り扱うこととする。

柏崎遺跡は久慈地区に属し、久慈川と長内川に挟まれた丘陵の先端部、西から東に下る緩斜面に立地する。現在は畑地として利用されており、縄文時代に属する遺物が表採される。

白山神社遺跡は長内地区に属し、北西から南東に下る緩斜面に立地する。白山神社の境内において土師器が表採される。

田高Ⅰ遺跡は長内地区に属する。南東に張り出した地形を呈し、北東側及び南西側にそれぞれ沢が流れており、さらに中央部にも沢による開析谷が存在する。現況は公共施設、宅地、畑地及び墓地となっており破壊がかなり進行している。畑地において縄文時代に属する遺物が表採される。また、南西側の張り出し先端部は墓地造成がなされており造成地のカット面において堅穴住居跡が確認される。古代に属するものと思われる。本遺跡は水利もよく、集落跡が存在する可能性が高いものと推測される。

田高Ⅱ遺跡は長内地区に属する。西から東への張り出し部の南側斜面に立地する。現況は畑地で、縄文時代及び古代に属する遺物が表採される。

下柏木遺跡は小久慈地区に属し、西から東へ下る緩斜面に立地する。須恵器が表採される。  
(第24図版10)

丹内神社遺跡は小久慈地区に属し、西から東へ延びる張り出し状の地形に立地する。張り出し先端部には丹内神社が鎮座し、神社境内において縄文時代に属する遺物が表採される。神社裏側は緩やかな地形で、北西側には沢が流れている。沢は人工的な流路のように観察され、広く緩やかな地形であることなどから、館跡が存在する可能性がある。

秋葉・大沢田地区は小久慈地区に属する。

秋葉Ⅰ遺跡は北から南に下る緩斜面に立地する。大規模な宅地造成が行なわれており、造成地カット面に遺物が認められる。造成地付近は山林であるが、緩やかな地形が広がっており、集落跡が存在するものと推測される。縄文時代及び古代に属する遺物が造成地において表採される。

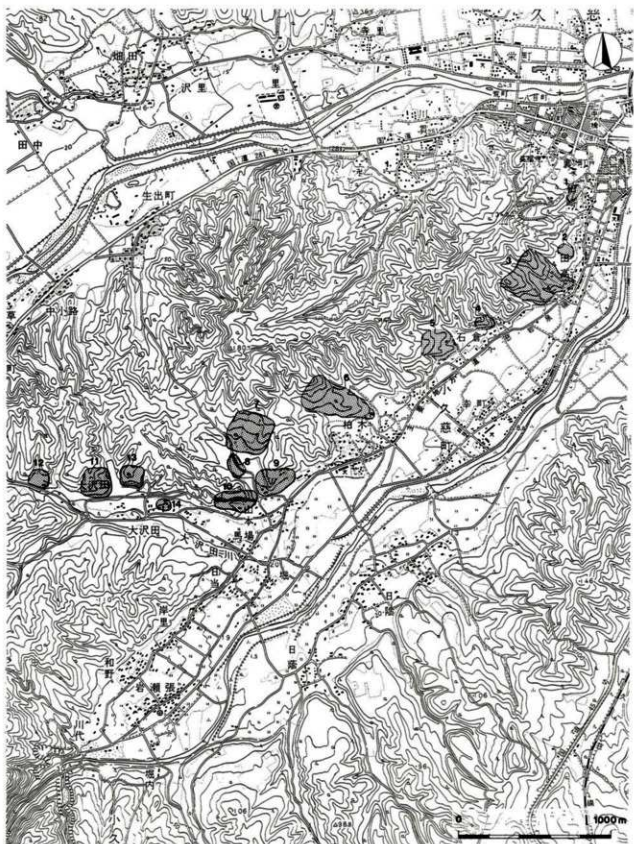
秋葉Ⅱ遺跡は秋葉Ⅰ遺跡南西方向に位置し、さらに南西側には沢が東流している。現況は畑地で土師器が表採される。

秋葉Ⅲ遺跡は、北から南に下る緩斜面に立地する。現況は主に畑地である。南側には水田が広がり、水田面より若干高い面にあたる。縄文時代の遺物が表採される。

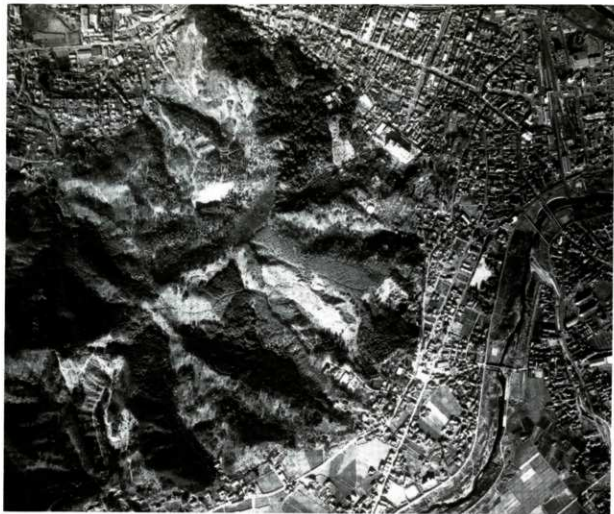
秋葉Ⅳ遺跡は北側と南側にそれぞれ沢が流れており、東側への張り出し部に立地する。縄文時代に属する遺物が表採される。

大沢田Ⅰ～Ⅲ遺跡は大沢田川左岸の南へ張り出した地形の南側緩斜面に立地する。現況は主に畑地で、遺物の散布密度は薄いですが、縄文時代に属する遺物が表採される。

大沢田Ⅳ遺跡は大沢田川左岸に位置するが、張り出し地形よりさらに低い面に立地する。遺物の散布密度は薄く、北側の張り出し部からの流れ込みの可能性はあるが、北側は山林のため遺跡の確認はできなかった。



番号	遺跡名	遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	柏崎遺跡	J F 30. 0307	散布地	縄文土器、土師器	柏崎	
2	F101神社遺跡	J F 30. 0345	散布地	土師器	長内町田高	
3	田高Ⅰ遺跡	J F 30. 0353	集落跡	縄文土器	長内町田高	
4	田高Ⅱ遺跡	J F 30. 0399	散布地	土師器	長内町田高	
5	下柏木遺跡	J F 30. 1207	散布地	須恵器	小久慈町下柏木	
6	丹内神社遺跡	J F 30. 1149	集落跡	縄文土器	小久慈町上柏木	
7	秋葉Ⅰ遺跡	J F 30. 1163	集落跡	縄文土器	小久慈町秋葉	
8	秋葉Ⅱ遺跡	J F 30. 1194	散布地	縄文土器	小久慈町秋葉	
9	秋葉Ⅲ遺跡	J F 30. 2106	散布地	縄文土器	小久慈町秋葉	
10	秋葉Ⅳ遺跡	J F 30. 2113	散布地	縄文土器	小久慈町秋葉	
11	大沢田Ⅰ遺跡	J F 30. 1095	散布地	縄文土器(仲瀬)、土師器	小久慈町大沢田	
12	大沢田Ⅱ遺跡	J F 30. 1090	散布地	縄文土器	小久慈町大沢田	
13	大沢田Ⅲ遺跡	J F 30. 1097	散布地	縄文土器	小久慈町大沢田	
14	大沢田Ⅳ遺跡	J F 30. 2019	散布地	縄文土器	小久慈町大沢田	

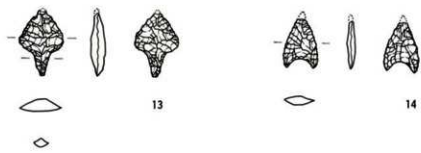
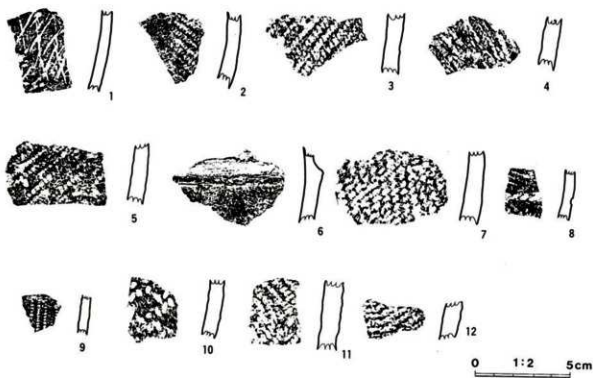


第22図版 柏崎、長内町田高、小久慈町柏木・秋葉地区航空写真



第23図版 小久慈町大沢田地区航空写真



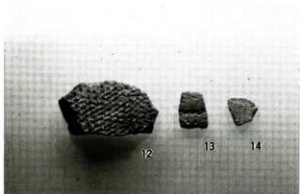
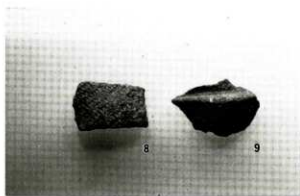
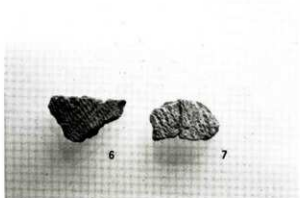
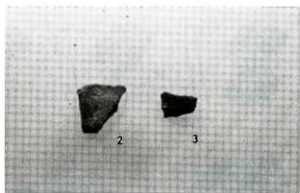


番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	田高1遺跡	深鉢	網目状彫糸文		第24図版4
2	田高1遺跡	深鉢	L状卑部		第24図版5
3	田高1遺跡	深鉢	L状卑部	織網舎	第24図版6
4	田高1遺跡	深鉢	網糸文	織網舎	第24図版7
5	田高1遺跡	深鉢	L状卑部		第24図版8
6	田高1遺跡	土師器類	内外面ヘラナゲ		第24図版9
7	秋葉1遺跡	深鉢	輪部	織網舎	第24図版12
8	秋葉1遺跡	深鉢	段状正部、反L卑部		第24図版13
9	秋葉1遺跡	深鉢	反L卑部		第24図版14
10	大沢田首遺跡	深鉢	網紋		第25図版1
11	大沢田首遺跡	深鉢	L状卑部		第25図版2
12	大沢田首遺跡	深鉢	L状卑部		第25図版12

( )は欠損品の現存品

品	遺跡名	器種	形態	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量 単位g	石質	写真図版	備考
13	秋葉首遺跡	石鏃	凸部有蓋	(2.5)・1.8、0.6	(1.80)	硬質頁岩	第25図版9	
14	秋葉首遺跡	石鏃	凹部有蓋	(1.9)・1.4、0.3	(0.75)	硬質頁岩	第25図版10	

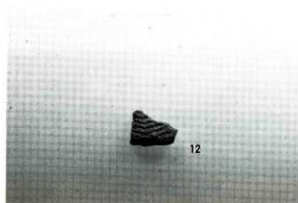
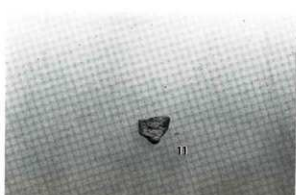
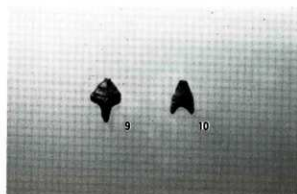
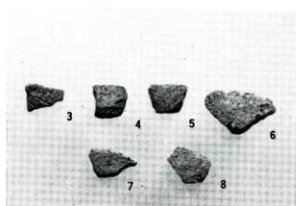
第25図 田高・柏木・秋葉・大沢田地区表掘遺物



第24图版 柏崎・田高・柏木・秋葉地区表探遺物

(1 柏崎遺跡、2・3 白山神社遺跡  
4~7 田高Ⅰ遺跡、8・9 田高Ⅱ遺跡  
10 下柏木遺跡、11 丹内神社遺跡  
12~14 秋葉Ⅰ遺跡)





第25図版 秋葉・大沢田地区表採遺物 (1・2大沢田Ⅲ遺跡、3～10秋葉Ⅲ遺跡)  
(11秋葉Ⅲ遺跡、12大沢田Ⅳ遺跡)



丹内神社遺跡 (北東より)



秋葉Ⅰ遺跡 (南東より)



秋葉Ⅰ遺跡 (南より)



秋葉Ⅱ遺跡 (南東より)



秋葉Ⅲ遺跡 (東より)



大沢田Ⅰ遺跡 (西より)



大沢田Ⅱ遺跡 (東より)



大沢田M遺跡 (南西より)



第26図 小久慈町日当・岸里・川代地区遺跡分布図 (S-1 : 20,000)



第28図版 小久慈町日当・岸里・川代地区航空写真

番号	遺跡名	根拠跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	天田内1遺跡	JF39-2155	竊跡	瓦、陶器、小久慈焼	小久慈町下日当	
2	天田内2遺跡	JF39-2144	竊跡	瓦、陶器、小久慈焼	小久慈町下日当	
3	小久慈船跡	JF39-2163	船跡	瓦、縄文土器、土師器	小久慈町下日当	別称下日当船跡、田戸船跡
4	岸里遺跡	JF39-2190	散布地	縄文土器	小久慈町岸里	
5	川代遺跡	JF49-0064	墓跡跡	縄文土器(前期)フレイク	小久慈町川代	
6	白山遺跡	JF48-0380	散布地	縄文土器	小久慈町白山	

## 7. 小久慈町日当・岸里・川代・白山地区

小久慈町日当・岸里・川代地区は長内川と、その支流である大沢田川に挟まれて、東に延びる丘陵の南東斜面にあたる。

小久慈館跡はその丘陵の先端部に立地する。現況は畑地、果樹園、山林、及び広葬地となっている。大沢田川寄りには空堀が現存し、幅約19m、深さ約2m、長さ約20mにわたる。

また、丘陵南側縁辺には幅約3m、長さ約150-200mにわたり、人為的な段が認められ、帯郭と推定される。館跡周辺には「堀」「馬場」という地名が残っている。(第27図)

小久慈館跡は別称日戸館跡とも呼ばれており、日戸内善正秀恒の居館、あるいは久慈信義の異母弟の十郎(後の為信)あるいはその第五郎が居館したものと推定されているが詳細は不明である。(註1)遺跡の面積は広く、縄文時代、弥生時代及び古代に属する遺物が表採される。

天田内Ⅰ・Ⅱ遺跡は小久慈町下日当に所在する。陶器の窯跡で、現在も小久慈焼企業組合により経営がなされている小久慈焼の古い窯跡である。

小久慈焼について、『八戸藩日記』文化10年(1813年)4月29日の条に下記のとおり記されている。(註2)

一 小久慈村甚六頼出候は、相馬より嘉蔵と申者罷越、□焼物致度旨願之通被仰付候、追々焼物成就、而亮ニも相成候ハ、其節為加焼物ニ而も上納仕度奉存候旨申出、釜場・土取場左之通

一 釜場 久慈三日町裏辰ノ口山畑之所半役程、御藏高老升、地主三日町字八

一 土取場 中小路館長之助持地、御藏畑漆□松山之内

一 新山 摂待磯辺様御拝知山之内、山口村

(馬)

右平相守候間内山之内

一 上野平山 大浜左平次相守候御山之内

一 菱倉喰石山 小向叶次郎相守居御山之内

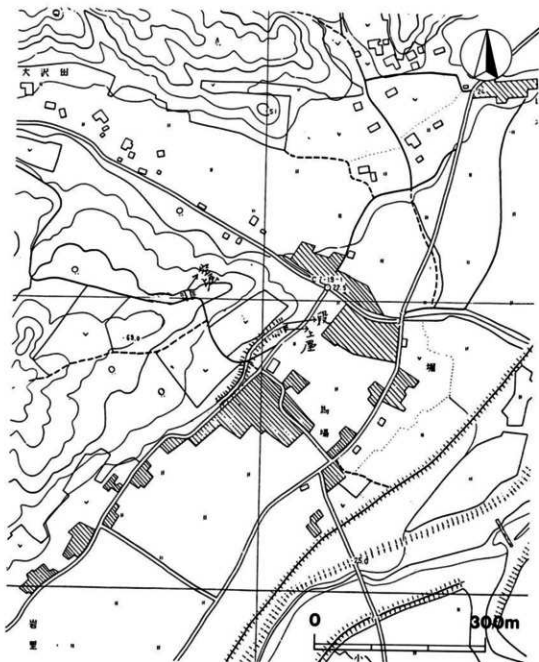
一 夏井木ノ崎山 場ノ弥次郎相守居候山之内

一 新井田徹道山 新井田街道助五郎山ノ内、當時下山宇兵衛相守候山之内

これによると、相馬から嘉蔵という人が来て、焼き物をしたという旨を、小久慈村の甚六という人が八戸藩に文化10年(1813年)願い出ている。小久慈焼の創始についてはこの資料をもとにした先学の研究があるので引用したい。「この小久慈村の「小久慈焼」は文化十年四月相馬中村から来た熊谷嘉蔵のはじめたものであった。」(註3)、「久慈の窯は文化十年に築かれている。天田内甚六の作るところである。」(註4)、「天田内甚六は、焼物を創始した本人と思われる。……何故、相馬の嘉蔵という者が甚六なる者に焼き物作りを申し出たのかは不明である……天田内の甚六に協力を求めたのではないかと考えられるのである。そして、甚六は自らの経済力や当地での社会的地位からみて、焼き物作りの場所、販路等の便宜を計るべく協力者であると同時に、その経営上の主(あるじ)の役割を果たしたのではないかとと思われる。」(註5)、「天田内焼初代は甚六という。」(註6)と推察されている。

小久慈焼は「久慈焼」「天田内焼」「一の谷焼」「九戸焼」などとも呼ばれていたようで、





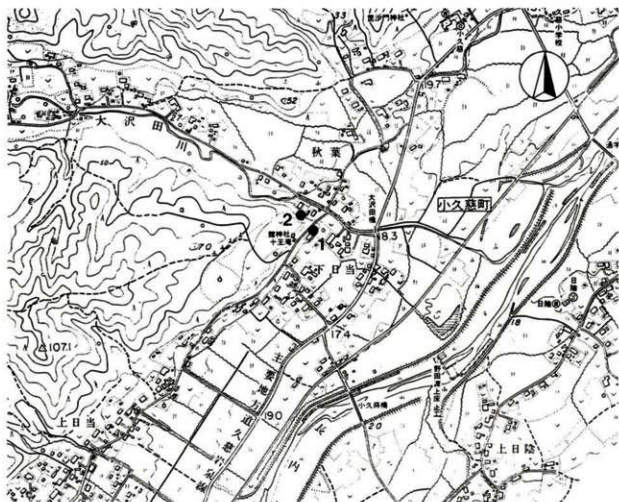
第27図 小久慈館跡地形図 (昭和59年度岩手県中世城跡分布調査カードより転載)

特に天田内という名が多く登場する。

天田内については「天田内とは、本家熊谷家の屋号である。」(註5)、「天田内川はいま大沢田川と通稱されている。右岸は山麓で、左岸には人家があり、田畑が広がっている。大川目の生出町に出る旧道は、秋葉部落の西端にあり、それに沿って一筋の小川がある。名もない小川と思っていたが、川沿いに住む古老達は、「小沢田川」というらしい。この沢水は天田内川に流れ込む。この小沢田川までの、天田内川流域田畑全部を、以前は「天田内田面・あまだないたおもて」といったのである。」(註6)とされており、天田内は地名をさすとともに熊谷家をもさしたものであると思われる。

窯を築いた場所については、八戸藩日記より大川目町三日町裏辰ノ口が最初に窯が築かれた





第28図 天田内Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図 (S-1:10,000)

1.天田内Ⅰ遺跡 2.天田内Ⅱ遺跡

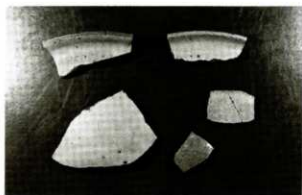
場所と推定されており、その後「辰の口山の窟は何年も使わず横小路に築いた。」その窟は「四十八、九年も使った老窟」で、そのさらにその後、「この屋敷にいまの窟」が築かれたとされている。(註4) この屋敷とは小久慈焼を継承する熊谷家の分家で、現在熊谷正一氏の屋敷となっている。大川目町三日町と小久慈町とは大沢田川沿いの峠を越える道によって往来できる。

天田内Ⅰ遺跡は大川目町三日町から最初に小久慈町に移築した窟跡と推測され、横小路と呼ばれる小道のすぐ脇に小高い場所が認められるが、それが窟跡である。民家がすぐ近くにあり、焚口は北東方向を向いている。窟跡には雑木が繁っているが枯葉の下には多量の陶器の破片とともに窟道具が散在している。(第29図版) 碗・皿・鉢類が多く表採される。

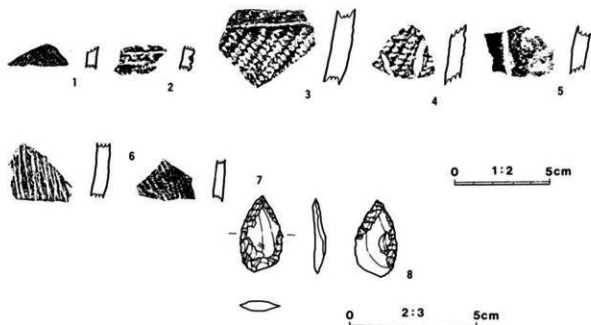
天田内Ⅱ遺跡は横小路からの移築先と推測される熊谷氏宅敷地内の窟跡である。南西側は小久慈館跡となっており、急斜面の裾部に築かれている。焚口は北東方向を向いている。戦後まで操業されていたといわれるが、現在は窟を覆っていた屋根もなく、支えの柱が数本立っているのみである。熊谷氏宅の敷地入り口には小久慈焼窟業発祥之地を示す石碑が建てられている。

岸里遺跡は小久慈館跡南西に位置し、北東から南西に下る傾斜面に立地する。現況は畑地及び山林である。縄文時代に属する遺物が表採される。

川代遺跡は長内川左岸、標高約40m、北西から南東に下る緩斜面に立地する。現況は畑地及



第29図版 天田内 I 遺跡表探遺物

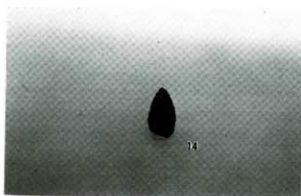
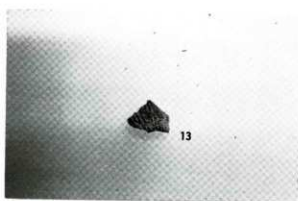
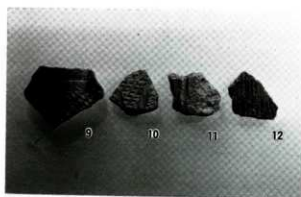
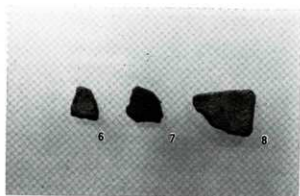
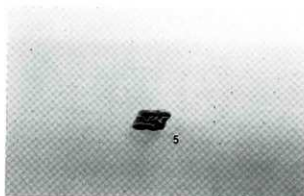
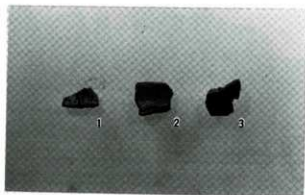


番号	遺跡名	器種	文 様	備 考	写真図版
1	小久保遺跡	深鉢	乱L草部		第30図版 4
2	小久保遺跡	深鉢	平行波線、交互刺突		第30図版 5
3	川代遺跡	深鉢	L, R草部		第30図版 9
4	川代遺跡	深鉢	波線文、乱L草部		第30図版10
5	川代遺跡	深鉢	波線文、L, R草部		第30図版11
6	川代遺跡	深鉢	無文		第30図版12
7	白山遺跡	深鉢	乱L草部		第30図版13

( )は欠損品の残存部

品	遺跡名	器種	器型	計測値、長さ、幅、厚さ、単位cm	重量 単位g	材質	写真図版	備 考
8	川代遺跡	石 鏃	凸形無茎	2.5、1.6、0.5	2.2	硬質頁岩	第30図版14	

第29図 日当・川代地区表探遺物



第30図版 日当・川代地区表採遺物(1~5小久意館跡、6~8岸里遺跡)  
(9~12・14川代遺跡、13白山遺跡)



小久慈館跡 (西より)



小久慈館跡 (東より)



天田内Ⅱ遺跡 (北より)



天田内Ⅰ遺跡 (北東より)



川代遺跡 (南より)



川代遺跡 (南西より)



川代遺跡 (北東より)



白山遺跡 (南より)

び水田である。遺跡内には川代毘沙門堂が鎮座しており、市指定文化財である川代毘沙門堂初代熊野権現が奉納されている。

白山遺跡は長内川左岸、標高約200mに立地する。付近は平坦面が広がりほとんどが山林であるが、畑地に利用されている箇所において縄文時代に属する遺物が表採される。

註1 小久慈館の居館主については、以下のとおりふれられている。

- ・「日戸内膳の居館」(本堂寿一『日本城郭大系』第2巻 新人物往来社 昭和55年)
  - ・「日戸内膳が一時居館とした」、「中野氏が一時この館を居館にした」との聞き取り調査結果を記しているとともに、「久慈信義の異母弟であり、仲が悪かったといわれる十郎(のちの為信)と、その第五郎あたりがこの館におったのではなかったか」と考察している。(藤部善次郎『二戸郡・九戸郡古城館址考』東北民俗研究会 1971年)
  - ・「日戸内膳正秀恒の居館」(岩手県教育会九戸郡部会編『九戸郡誌』復刻版 臨川書店)
- 註2 久慈市史編纂委員会『久慈市史』第5巻資料編Ⅱ 昭和62年より引用
- 註3 森 嘉兵衛 「第八節 小久慈焼窯業」『九戸地方史』下巻 昭和45年
- 註4 小井川調次郎 「久慈焼」『八戸の民芸』昭和39年
- 註5 鈴木古観 「天田内焼に関する調査研究の事始め」『考古風土記』第4号 1979年
- 註6 田村栄一郎 「ルーツ小久慈焼」『北三陸史窓』第7号 1989年  
田村栄一郎 「陶磁器相伝縦」『北三陸史窓』第7号 1989年



### 第三章 ま と め

平成2年度の市内遺跡詳細分布調査の結果については、第Ⅱ章で概述したとおりであるが、各地区毎における特徴的な遺跡についてふれてみたい。

大尻地区は、縄文時代を主体とする遺跡が分布しており、昭和61年度の発掘調査により縄文時代前期後半から中期前半にかけての遺物包含層が検出されており、大量の遺物が出土している。土器・石器の他、獣骨・魚骨等も出土している。調査区においては近世から現代にかけての貝層が形成されている箇所は認められたが、縄文時代に属する貝層は検出されなかった。しかしながら、大尻地区内に貝塚が存在する可能性は高く、多量の遺物が散布していることから集落跡の存在も予想され、貴重な遺跡群である。また当地方の特徴である琥珀が包含層より出土しており、現在のところ本市において、発掘調査で得られた資料では最も古い時期に属するもので、加工痕は認められないものの、当時既に琥珀が意図的に遺跡に運び込まれたことを示すものである。

二子地区は、市指定史跡二子貝塚が存在しており、岩手県北部沿岸地域においては数少ない貝塚として貴重である。平成元年度から平成2年度にかけての発掘調査によって、縄文時代後期から晩期にかけて形成された貝層等が検出され、土器・石器等の他、骨角器・自然遺物等が多量に出土しており、当地方の該期の生活を知る上で極めて重要な貝塚である。また、貝塚付近の二子Ⅰ・Ⅱ遺跡には多量の遺物が散布しており、集落跡が存在するものと推測され、二子貝塚と関連する遺跡として興味深い。今回の分布調査により二子Ⅰ遺跡、二子Ⅱ遺跡に区分したとともに、遺跡の範囲は南方向に拡大した。

元木沢・平沢・長内地区は、近年発掘調査が増加している地区で、調査結果が多く報告されている。

平沢Ⅰ遺跡は、今回の分布調査の結果西方に遺跡が拡大することが確認され、広大な遺跡面積を有する。縄文時代前期、後期、古代の集落跡が存在しており、重要な地区である。

中長内遺跡は、昭和59～61年度の発掘調査により、縄文時代及び古代の集落跡が検出されている。古代の竪穴住居跡からは多くの琥珀が出土しており、加工痕を有するものが多量に認められた。1棟の竪穴住居跡から数百点の琥珀が出土した竪穴住居跡もあり、本遺跡において琥珀の加工がなされていたことが認められた。日本最大の琥珀産地である当地方において、古代における琥珀の採取と加工行程を知るうえで貴重な資料である。

小久慈町日吉・堀内地区は、ほぼ同じ標高で平坦面が連続しており、それぞれ大規模な遺跡が存在するものと推測される。兼田農場遺跡は、昭和60年度の発掘調査により縄文時代の狩猟場及び古代の集落跡が検出されており、同様の立地条件である兼田農場遺跡の北東側の遺跡群の遺跡の内容等は今後注視していかなければならない。

小久慈町古山地区・古山Ⅱ遺跡は、遺物の散布密度も濃く、緩やかな地形及び自然の沢がすぐ近くを流れており、集落跡が存在するものと推定される。山あいでも開発も進んでいない地区であるため、良好な状態で残存しているものと思われる。

長内川左岸の丘陵の南東斜面の地区において注目されるのは大きな規模を有するものと推測

される丹内神社遺跡である。ほとんどが山林であるが緩やかな地形となっており、館跡である可能性がある。

また、天田内Ⅰ・Ⅱ遺跡は、陶器の窯跡であるが、本市において江戸時代後期に開窯された小久慈焼（天田内焼）の現在に至るまでの変遷を示す遺跡として、また、民窯としてその長い歴史をたどり現在もその経営が継続されており、当地方の産業史のひとつを語る遺跡としても貴重である。

引用・参考文献

- 照井一明 「陸中海岸北部地域の海岸段丘と古流系」 岩手県高等学校教育研究会地理部会 1982年
- 久慈市教育委員会 「上野山Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 久慈市埋蔵文化財報告書第4集 1985年
- 久慈市教育委員会 「大尻遺跡発掘調査報告書」 久慈市埋蔵文化財報告書第7集 1987年
- 久慈市教育委員会 「中長内遺跡」 久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 1987年
- 久慈市教育委員会 「中長内遺跡(Ⅱ)」 久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 1989年
- 久慈市教育委員会 「久慈市の指定文化財」 1989年
- 久慈市教育委員会 「久慈市内威勢詳細分布調査報告書Ⅰ」 久慈市埋蔵文化財調査報告書第12集 1990年
- (財) 岩手県埋蔵文化財センター 「小屋畑遺跡発掘調査報告書」 岩手県埋文センター文化財調査報告書第80集 1984年
- (財) 岩手県埋蔵文化財センター 「上野山遺跡発掘調査報告書」 岩手県埋文センター文化財調査報告書第67集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第125集 1988年
- 岩手県教育委員会 「岩手県中世城館跡分布調査報告書」 岩手県文化財調査報告書第82集 1986年
- 『九戸郡史』 岩手県教育会九戸郡部会編 復刻版 1986年
- 『日本城郭大系』 第2巻 新人物往来社 1980年
- 築部善次郎 「二戸郡・九戸郡古城館跡考」 東北民俗研究会 1971年
- 岩手県 『岩手県史』 第三巻 中世篇下 1961年
- 森嘉兵衛 『九戸地方史』 下巻 1970年
- 久慈市史編纂委員会 『久慈市史』 第5巻資料編Ⅱ 1987年
- 小井川潤次郎 「久慈焼」 『八戸の民芸』 1964年
- 鈴木古観 「天田内焼に関する調査研究の事始め」 『考古風土記』 第4号 1979年
- 田村栄一郎 「ルーツ小久慈焼」 『北三陸史窓』 第7号 1989年
- 田村栄一郎 「陶磁器相伝報」 『北三陸史窓』 第7号 1989年
- 吉田義昭 「焼きもの」 『いわての手仕事』 (社) 岩手県文化財愛護協会 1988年
- 岡村吉右衛門 『民窯』 日本陶磁大系27 平凡社 1989年

---

---

久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集

**久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ**

平成3年3月発行

発行 久慈市教育委員会

〒032 岩手県久慈市川崎町1-1  
TEL (0194) 52-2111

印刷 有限会社 九戸印刷

〒032 岩手県久慈市長内町24-10-13  
TEL (0194) 52-1113

---

---



